
1 札幌市若者支援施設管理業務の実施状況

(1)総括管理業務

ア 管理運営に係る基本方針の策定

(ア) 管理運営業務の基本方針

札幌市若者支援基本構想の目標に基づき、これまでの実践で得た知見をもとに、若者の社会参画的自立促進に向けて、「社会的セーフティーネット」「若者同士の交流、仲間づくり」「社会参画」3つの視点から若者のへの伴走型支援を実施してきた。

また、居場所での出会いをきっかけにした関係構築によって以下の3点に注力し若者を支える社会の創造の実現に向けて取り組んだ。

- ・居場所をよりどころに若者の日常が彩られるための伴走型支援
- ・社会と若者の新たな接続のカタチづくり
- ・「市民とともに運営する公共施設」としての透明性の確保と弛まない成長

令和5年度基本方針

「Youth+の賑わいを取り戻す」

年齢や興味関心の異なる多様な若者が自己実現のための取り組みや若者同士の活動を自由に楽しめる活気ある空間として、人を引き付ける魅力あふれる施設づくりの展開を推進した。多様な若者が自らの人生を豊かに過ごす居場所としての賑わいの創出を目指し、以下の重点目標に沿って事業を展開した。

(イ) 管理運営業務の事業目標

<重点目標>

ア 地域活動等事業

Youth+と他団体や地域との連携による事業を実施した。

いとこんち

家庭からの自立を必要とする若者や児童養護施設等を退所した若者への自立支援を目的とし、生活活動機会および自立に向けたサポートを行った。また、一般社団法人ソーシャルペダゴジーネットとの協働により、生活体験及び多種多様な体験活動の機会やリビングカーを活用し物資等の提供が可能となり、若者が必要とするサポートにつなげた。

《実施状況等》

一般社団法人ソーシャルペダゴジーネットとの協働により、若者が必要とするサポートにつなげ大きな成果となった。

ヤングケアラー交流サロン

当法人こども事業課が受託したヤングケアラー相談サポート事業について、家事や介護を担う18歳以下のヤングケアラー当事者への支援として、電話やLINEによる相談及び定期型サロン、出張型サロンの開催を連携して実施した。スクールソーシャルワーカーや家庭児童相談室等から若者の情報を得て、本人との関係構築を図り、必要に応じた支援を継続的に行った。

若者支援施設の連携先である学校等からの協力により、生徒情報を得る中で、必要な生徒への支援等につなげた。

《実施状況等》

必要な生徒への支援等について考え行動する機会を得られた。また、授業での生徒への広報活動等をとおして、ヤングケアラーへの意識の醸成に努めた。

イ 施設運営等事業

(ア) ユースワーカーの個性輝く Youth+

若者の多様なニーズや価値観にユースワーカーが寄り添い、多くの人々が集い、人と人とのつながりによって魅力ある Youth+を目指す。

《実施状況等》

ユースワークを語ることができる職員の育成に向けて学びを深めた。また、事業実施に向けてユースワーカーが必要とするスキル知識の習得を目標に掲げ、継続した取り組みの中で力量を高めた。

(イ) Youth+の「社会的役割」や「質的評価」の認知を広めるためのユースワーク

《実施状況等》

「大通交流拠点ユースワーク事業」を受託し、若者との関係構築を継続的に進めた。また、学校訪問及び相談業務等で培った関係性から、プログラム業務の依頼が増化し、ユースワークの認知を広げる機会となった。

(ウ) 子ども・若者当事者のアドボカシーの推進

居場所拡充事業（ミニ Youth+）に取り組んだ。多様な人々が集う居場所やアウトリーチ先において、発せられる当事者の声に耳を傾け、若者の実情を社会へと発信する。自らの声により、社会が変化する実感を伴うことで、若者自身が感じる達成感や若者に限らない周囲の大人や関係団体の Youth+ に対する信頼感や期待感を高める。

《実施状況等》

若者の声を集約し、X をとおして若者のエピソードとして継続的に発信した。また、大通交流拠点ユースワークで出会う若者たちにアンケートを実施し、若者の現状調査を行った。

(エ) 地域とともに実践するユースワークの推進

居場所においては、独自指標に基づきユースワークを展開し、地域の持つ力を若者のニーズや課題に対して最大限活用する。

《実施状況等》

居場所拡充事業においては、独自指標に基づきユースワークを展開し、Youth+ 主導の居場所の運営から協働型運営等へのステップアップを目指し、地域や関係機関との連携を深めた。

《全体をとおして》

地域活動等事業においては、個々に抱えている困難や課題に寄り添い、若者が必要としているかわりやサポートを提供していく中でさらに信頼関係が深まり、若者にとって相談や頼りになる存在となり得たと考える。

施設運営等事業においては、「大通交流拠点ユースワーク」事業を新たに受託したことはこれまでの実践が評価されたと考える。また、Youth+ の「社会的役割」や「質的評価」の認知を広げるため、アドボカシーの推進や地域とともに推進するユースワークの実践に向けてユースワークに必要な不可欠なスキルや知識の習得に努め事業等に邁進した。

イ 平等利用に係る方針等の策定と取組み

基本的な方針に基づき、統括責任者の下、全職員の心構えを明確にして取り組んだ。若者に限らず広く市民の声に耳を傾け、法令遵守に留まらないコンプライアンス意識を持った運営を基本とし、誰もが利用しやすい施設づくり及び情報提供についての方針として以下の項目に沿って実施した。

- ①平等利用を確保するための基本的な方針
- ②統括責任者の役割
- ③職員の心構え
- ④平等利用を妨げる恐れがある事象及び組織として対応する取組事項
- ⑤差別的な取扱いの排除
- ⑥若者以外の利用について
- ⑦受付初日における貸室利用の重複時の対応について

差別的な取扱いの排除、若者以外の貸室等の利用において、平等利用の確保を推進するとともに、日常の窓口業務やモニタリングアンケートとおして、広く市民の声に耳を傾けるとともに、コンプライアンスを徹底し、誰もが利用しやすい施設づくりに取り組んだ。

また、貸室の受付における平等利用はもとより、さまざまな理由により情報収集に乏しく、また経済的困難等から施設来所に至らない若者へのアプローチとしてアウトリーチ事業を強化した。

《実施状況等》

平等利用を確保するための基本的な方針に基づき、統括責任者の下、全職員へ心構えを明確かつ徹底し、有料貸室業務及び事業展開に努めた。

また、休館日に伴う受付開始日の変更等の周知、貸室利用、施設登録におけるオンラインシステム利用を促し、すべての利用者の平等利用の確保に努めた。

ウ 地球温暖化対策及び環境配慮の推進

＜基本的な考え方＞

職員一人ひとりが環境問題への意識を高め、札幌市環境マネジメントシステムに基づいて作成した職員環境行動マニュアルを基本とした取り組みを行うことにより環境負荷の低減を図った。

また、持続可能な開発目標（SDGs）の視点を踏まえた環境に配慮した取り組みを推進し、持続可能な社会実現に寄与するための行動に努めた。

＜指針＞

- (1) エネルギー使用量の削減
- (2) 事業活動をととした市民への環境配慮行動に関する啓発・教育活動の実施
- (3) 職員への環境配慮行動の徹底
- (4) 各種設備の適正な維持管理及び新設にあたっての配慮事項の徹底
- (5) 施設管理業務及び事業活動に関する各種法令の遵守

＜具体的な取組み＞

- ①「札幌 SDG s 企業登録制度」への当法人登録に伴い、改めて「省エネ・節電」に対する職員の意識啓発に取り組んだ。
- ②利用者がいない時間帯の消灯や、暖房の温度設定、外気温にあわせた温度調整など工夫可能な点を見直し、日頃から省エネやコスト意識を持ち、施設の運営に支障のない範囲で電気・ガス、水道等の使用の工夫を行い、エネルギー消費の抑制に取り組んだ。
- ③資料のデータ配信によるペーパーレス化、コピー用紙の再利用の他、グリーン購入の促進、ごみの分別徹底によるごみの減量化を図った。
- ④札幌市環境マネジメントシステム (EMS) に則り、各種調査等に協力し帳票を提出した。
- ⑤さっぽろエコメンバーレベル3の事業所として環境配慮の取り組みを維持した。また、備品購入の際にも省エネタイプの製品を積極的に選定し取り入れた。

《実施状況等》

エネルギー使用量の削減を意識し、冷暖房の温度設定及び節水に係る取り組みを強化した。職員の環境配慮行動についての共通認識を高め、積極的な取り組みに努めた。

【エネルギー使用量の比較】

(原油換算 単位：L)

施設名	令和5年度	平成4年度	前年比
Youth+センター	4,015	3,618	111%
Youth+アカシア	21,707	23,092	94%
Youth+ポプラ	21,619	20,791	104%
Youth+豊平	24,489	28,914	85%
合 計	71,830	75,783	95.5%

エ 管理運営組織の確立

(ア) 責任者の配置、組織整備、従事者の確保・配置

若者支援施設の基本方針及び事業目標の具体的な実現を目指し、統括責任者及び職務代行者を配置した。また、各施設に責任者を配置し、円滑な業務遂行のための管理運営組織を構築した。加えて緊急時の連絡体制を整備した。

若者支援に関する知識や技能の習得のための育成を行い、自立支援については特に専門性を持つ職員を配置し、適切な施設運営業務の遂行と事業の充実を図った。

(イ) 従事者の確保・配置

職員配置計画に提案した職員数を基本とし、また、仕様書で求められている Youth+センターにおける相談業務に対応する有資格者の配置を行った。

【令和 6 年 3 月 1 日現在の配置数】

(人)

施設名	指定管理業務	自主事業	合計
Youth+センター	13	18	31
Youth+アカシア	7	0	7
Youth+ポプラ	5	1	6
Youth+豊平	5	0	5
Youth+宮の沢	11	0	11
合 計	41	19	60

※ 1 表の人員のほかに、当法人として社会福祉施策及び障がい者法定雇用率維持に基づいて雇用し、Youth+に配置した。

身体障がい者及び精神障がい者 4 人の職場限定職員及び専門指導員を配置した。業務内容としては、受付窓口や軽易な経理事務、相談等を担った。

※ 2 自主事業「地域若者サポートステーション事業」（以下、「サポステ」という）では、キャリアコンサルタントのほか社会福祉士などの有資格者を雇用した。

(ウ) 人材育成・研修計画

人材育成・研修年間計画に基づき、若者支援施設の運営に必要な項目についての研修を実施した。

①休館日を活用した職員全体研修

若者支援施設の運営に伴うさまざまな事項の習得を目的とし、庶務、管理、環境、個人情報保護、AEDの使用方法等を学ぶ機会を設けた。また、若者支援に必要な知識や技術の取得を目的に自立支援やLGBTQ、性の基礎知識などの専門知識を学んだ。

②ユースワーク研修

「ストーリーテリング」の手法を活用したユースワーク技術のレベルアップ、またユースワークにおける職員の倫理観・価値観の共有を目的に集中的な人材育成を実施した。

③経験年数及び育成目的別に分けた人材育成

当法人職員として広い視野や専門知識を有する職員の育成を目的に取り組んだ。人材育成計画に示している経験3年目程度の一般職員から若手主任職に属する主任職員・一般職員」を対象に、期待される役割を明確に伝え、業務に対する使命感や充実、達成感の醸成、また、他課との連携意識を持ち、当法人の中でどのように自分を生かしていくことが可能かなど、自身の今後の方向性を見出せるようにキャリアサポートの視点を持ち取り組んだ。

④その他

新任・当法人他課からの異動職員対象者研修、自立支援研修、ユースワーク専門研修、外部研修等を実施した。

【全体研修・休館日研修】

実施日	内 容
4 月 10 日（月）	①服務規律・接遇 ②個人情報保護 ③環境配慮についての取り組み ③救命救急 AED 研修 ④令和 5 年度事業計画書の確認
5 月 10 日（水）	①経理・庶務研修 ②ユースワーク研修
6 月 9 日（金）	①目標管理について ②ロビーワークチェックシートについて ③ユースワーク研修（第 2 回目） 「実践を記録すること・伝えること」 ストーリーテリングの手法を学ぶ
7 月 11 日（火）	北海道札幌南校定時学校祭にてユースワーク実習
8 月 10 日（木）	課題検討 ①ロビーのにぎわいを取り戻すための今後の取り組みについて ②大通ユースワーク事業の取り組みについて
9 月 8 日（金）	①4 月～8 月の振り返りと今後に向けた見直し ②各施設情報共有
10 月 10 日（火）	①共通事業上半期ふりかえり ②「ユースワークの基礎知識」 ③「若者対応における知っておくべき「性」の基礎知識を学ぶ」
11 月 9 日（木）	①「ストーリーテリングワークショップ」 ②グループワークスキル基礎研修 ③外部研修（出張）報告
12 月 11 日（月）	①「ストーリーテリングワークショップ」 ②外部研修（出張）報告 ③令和 6 年度事業計画策定に向けて
1 月 10 日（水）	①令和 6 年度事業計画立案 ②「LGBTQ 実践検討会」 ③外部研修（出張）報告

実施日	内 容
2 月 9 日（金）	①施設安全管理研修 ②LGBTQ 研修：理解を深め対象となる若者とかかわりについて考える。 ③「ストーリーテリングワークショップ」
3 月 11 日（月）	①令和 6 年度年間事業計画について ②ユースワーク研修 ストーリーテリングワークショップ 「令和 5 年度札幌のユースワークをふりかえる」 ③デジタルリソース～Instagram 研修 Instagram の安全管理とコンプライアンス及び有効活用について

《その他の研修内容》

実施日	内 容
4 月 14 日（金） 5 月 19 日（金）	初任者・異動者研修
7 月 19 日（水） 10 月 11 日（水） 12 月 19 日（火） 3 月 5 日（火）	財団横断研修 相談横断スキルアップ研修
9 月 29 日（金）	自立支援研修
随 時	ストーリーテリングについて
随 時	外部研修への参加

<実施状況等>

大学でユースワークを研究する教授や、各専門分野講師の助力も活用し研修を進めたことで、効果の高い人材育成に取り組み成果があった。

また、職員一人ひとりが、ユースワーカーとしての自覚を持ち、利用者とかかわりを深めるための素地の育成につなげた。

経験 3 年目程度の職員を対象に、期待される役割を明確に伝え、業務に対する使命感や充実、達成感の醸成、自身の今後の方向性を見出せるようにキャリアサポートの視点を持ち育成し、業務に対する意欲を高めた。

オ 管理水準の向上に向けた取組み

(ア) 責任者会議の設置

Youth+の管理水準の維持向上に向けて、統括責任者の招集の下、定期的な会議の開催、その他、必要に応じて臨時会議を開催し管理水準の維持向上に努めた。

(イ) 情報共有の取組み

業務に関する日常的な情報の共有に注力した。その他、オンライン会議の導入を推進し定期的に情報を共有するとともに必要に応じて、迅速にミーティングを実施した。また、改善・対処すべき課題については、速やかな意思決定を行い市民サービスの向上に取り組んだ。その他、日常的に社内メールを活用することで、迅速な情報共有を図った。また、オンラインを活用した会議等を活用し対処すべき事項への迅速な対応に努めた。

(ウ) 業務見直しの方法

統括責任者の招集による定例の責任者会議を活用し、業務等の見直し改善点を協議し、管理水準の維持するためのセルフチェックを行った。また、有事の際には、臨時責任者会議のほか、統括責任者の指揮の基、対応職員を招集し解決に向けた意見交換並びに業務の改善の体制を整えた。

カ 第三者に対する委託業務等の管理

承認いただいたとおり、専門的技術を要する指定項目については、市内企業へ第三者委託し、適正な施設管理に努めた。業務発注に際しては、十分な業務説明を行うとともに、連絡を密に精度の高い業務の履行に努め要求水準を満たした。

< 委託業務一覧 >

業務名	契約先	期間
清掃業務 (アカシア、豊平)	株式会社東洋実業	2 年間
機械警備業務 (総合・アカシア・ポプラ・豊平)	札幌パブリック警備保障 株式会社	5 年間
暖房給湯設備保守点検業務 (アカシア、豊平)	東テク北海道株式会社	単年度
消防設備等保守点検業務 (アカシア、豊平)	道民防災コンサルタント 株式会社	単年度
オイルタンク漏洩点検業務 (豊平)	株式会社アイックス	単年度
除雪及び排雪業務 (アカシア、豊平)	アカシア:株式会社光和 豊平:株式会社クリーンメッセ	単年度
受水槽清掃及び水質検査 (アカシア、豊平)	株式会社キタデン	単年度
体育室ウレタン塗装清掃業務 (アカシア、豊平、宮の沢)	新生美装興業株式会社	単年度
建築基準法（第 12 条第 2 項及び第 4 項）定期点検業務 (アカシア、ポプラ、豊平)	道民防災コンサルタント 株式会社	単年度

※別紙 1「札幌市若者支援施設館内修繕等一覧」のとおり

キ 札幌市及び関係機関との連絡調整

(ア) 札幌市若者支援施設運営協議会の設置運営について

協定書及び管理業務の仕様書に基づき、札幌市及び外部有識者等により構成される運営協議会を開催した。

①施設運営に係る報告及び検討の提案

②毎回、以下のテーマについて意見交換及びご意見をいただいた。

- ・「札幌市民にどのようにユースワークを広げていくのか」
- ・「賑わいが取り戻りつつある中、今後の効果的な事業展開と対応すべき社会課題について」
- ・「令和6年度事業計画・事業戦略の取り組みに向けて社会課題を先取りした事業展開の協働について」

③令和6年度事業計画基本方針達成のためのアドバイスをいただいた。

全3回の運営協議会において、開催ごとにテーマを設けた意見交換を活発に行い、それらを反映させた施設管理及び事業運営につなげ活性化を図った。

開催回	協議・報告内容
第1回	(1) 施設・事業実施状況報告 (2) 数値目標達成状況報告（令和5年4月～6月まで） (3) 令和5年度事業目標「Youth+の賑わいを取り戻す」について (4) 大通ユースワーク事業について (5) 意見交換 テーマ「札幌市民にどのようにユースワークを広げていくのか」
第2回	(1) 施設・事業実施状況報告 (2) 数値目標達成状況報告（令和5年7月～10月まで） (3) 意見交換 テーマ「賑わいが取り戻りつつある中、今後の効果的な事業展開と対応すべき社会課題について」
第3回	(1) 施設・事業実施状況報告 (2) 数値目標達成状況報告（令和5年4月～令和6年2月） (3) 利用者登録時アンケート結果および次年度アンケートについて (4) 令和6年度事業計画および事業戦略について (5) 意見交換 テーマ「令和6年度事業計画・事業戦略の取り組みに向けて社会課題を先取りした事業展開の協働について」

※別紙2「札幌市若者支援施設運営協議会設置要綱・委員名簿」のとおり

(イ) さっぽろ子ども・若者支援地域協議会の運営

子ども若者支援の切れ目のないネットワークを構築することを目的に、地域協議会の調整機関として構成機関および地域の民間支援団体のコーディネートを行った。また、構成機関相互の日常的な連携、協力体制を基盤とし、国の動向を踏まえ、札幌の協議会の取り組みに反映した。

- ・実務者会議の開催：年４回（６月、１０月、１月、３月）
- ・代表者会議への参加：年１回（３月）
- ・子ども若者支援セミナーの開催：年２回（１０月、１２月）

《実施内容・状況》

①10月のセミナー

「こども・若者支援における地域ネットワークの役割」をテーマに実施し74名の参加があった。

②12月のセミナー

協議会ワーキングチーム主催で教職員向けに実施し、87名の参加があった。こども家庭庁発足など国の施策動向などを踏まえて、特に子ども期から若者期への切れ目のない支援ネットワーク構築を強化した。

(ウ) 札幌市が開催する連絡会等への出席・関係機関との連絡調整

札幌市が開催する若者支援にかかわる連絡会議等には、札幌市と調整したうえで出席するとともに、関係機関（利用者団体等関連する団体や組織、機関等との良好な関係を維持し、必要に応じて連絡調整を行った。

ク 財務(資金管理、現金の適正な取扱)

当法人「財務規程」等により指定管理業務、自主事業の区分経理を行い、現金出納簿、帳票を整理し、毎月毎に、統括責任者が全施設分の決裁を行った。

また、当法人の財務規程に則り、適正な事務を執行した。現金の取り扱い及び飲料販売に伴う在庫管理等は複数人での確認を徹底し未然の事故防止に努めた。当法人内部監査及び札幌市財務検査においての結果は適正であった。

(ア) 適正な現金の取扱い、指定管理費を含む収入などの資金管理について

①各施設において、当日の収入管理業務、現金の取扱いを複数職員で確認を行い、翌銀行営業日に速やかに入金専用通帳に預け入れとし、現金取り扱いのルールを徹底した。

- ②当該月の収入は、翌月に当協会総合口座へ一括振振替を行い、職員は窓口以外での現金は取り扱わず事故発生に努めた。
- ③毎月 15 日と末日に出納簿の点検を行い、当法人総務課において一括管理を行った。
- ④収益及び施設運営費用の予算の執行状況においては、内部ネットワークを介し都度確認が可能な体制を保った。

ケ 要望・苦情対応

(ア) 要望・苦情への公平・平等、適切かつ迅速な対応

利用者満足度アンケートの実施及びご意見箱の設置等により日常的に市民の意見や要望を把握した。

ご意見箱については、4 件いただき適切に対応し、内 1 件は、日ごろの感謝を伝えていただいた内容であった。

その他、ご意見箱や窓口等に寄せられたご意見については、迅速に対応し改善した。その他、窓口等での要望・苦情については、真摯に受け止め、公平・平等、適切かつ迅速な処理回答を行った。なお、設備修繕の要望については、札幌市と協議し対応し、協議に時間が必要な案件については、継続し札幌市と解決に取り組んだ。

(イ) ①対応事例（ご意見箱・一部抜粋）

施設名	内 容
Youth+センター	要望：音楽系イベントの実施 回答：Youth+センターをはじめ、各 Youth+にて実施している音楽系イベントをご案内した。
Youth+アカシア	要望：ロビーのエアコンの設置と体育室の扇風機の台数の増加 対応：ロビーのエアコン設置は所管局と調整、工事が必要なことから取り急ぎ移動式の冷風機を導入、また、体育室にも移動型扇風機を導入した。
Youth+宮の沢	要望：「ロビーの空き状況をインターネットでリアルタイムに知りたい」 回答：システムの改修が伴うことであり、直ちに改善することは難しいが、今後の検討課題にさせていただく旨を伝えた。

②対応事例（窓口・アンケート）

施設名	内 容
Youth+センター	要望：防音室が欲しい 回答：ビルの構造上難しいことを伝え、音量が大きい場合は適宜スタッフの声掛けを徹底した。 要望：LGBTQ+の方のトイレ利用について 対応：「個別対応中」の掲示をドアに掛け対応した。
Youth+アカシア	要望：フットサルの柵を修繕してほしい 対応：柵のゆるみなどを早急に修繕し安全を確保した。
Youth+ポプラ	要望：入口がわかりにくい 対応：1階入口扉前に手書きの案内看板を設置した。
Youth+豊平	要望：ピアノの調律 回答：年に2回調律を行っている状況を説明し、ご理解いただいた。
Youth+宮の沢	要望：貸室の窓を開けていると昆虫などが侵入し、活動に支障がある。 対応：新規に網戸の設置を行った。

コ 記録・モニタリング・報告・評価

（ア）記録

業務日誌や文書管理簿、金銭の出納に関する帳簿等、指定管理業務の実施に関する記録を常時整備した。その他、自立支援事業登録者のみならず、交流促進事業や社会参加促進事業で出会った若者の状況やスタッフとのかかわりを記録した。なお、記録については、個人情報の適正な取扱いに関する基本方針に基づき、個人情報の管理区域の設定及び安全管理措置の実施に伴い、安全な場所に保管した。

日々の記録をもとに定期的に検討会を実施し、より適切な施設運営や個別支援について協議を行った。また、管理から事業、そして個別支援のすべての側面において各種記録を整備し、効果的な管理運営を確保した。

(イ) セルフモニタリング

市民ニーズを捉えた運営がなされているのかなど利用者や市民の声についての測定を行い、定期的な業務を見直し改善策を講じた。

- ①利用者満足度アンケート
- ②業務・財務検査自己チェック
- ③その他事業等における利用者のニーズ把握
- ④若者支援施設における日常的な要望の把握

《実施状況等》

利用者満足度アンケート、日常のロビーワーク及び窓口対応においての直接的な聞き取り等により若者を中心とした市民のニーズを把握し、施設運営や事業に反映した。

①利用者満足度アンケート

・調査目的

施設、職員への満足度調査(セルフモニタリング)項目、自由記述項目により、特に管理面で改善を要する箇所についての情報収集を行い、施設の利便性を高めることを目的に実施した。

一般団体・若者団体と支援対象を分けた集計を行い、各々の満足度・理解度について確認した。

・調査期間：令和5年10月1（日）～10月25日（水）の25日間

・調査方法：利用時の窓口配布、終了時回収の留置調査法、全数調査

・質問項目数：Youth+について、貸室、貸室申込について、職員の接遇など全10問、その他自由記載欄を設け、具体的な意見等をいただいた。

・調査対象：各Youth+の有料貸室を利用する一般及び若者団体代表

期間利用団体数：591団体

有効回答団体数：518団体（回収率：88.0%）

※詳細については、「利用者の満足度利用者アンケートの結果」参照。

②利用者モニタリング事業

若者からの意見を施設運営反映されることを目的にモニタリングを実施し若者の意見を引き出した。

施設のレイアウト変更や図書、雑誌等や若者が求めているニーズ調査を行い、柔軟に若者の声を反映した空間づくりや環境整備を行った。

《具体的内容》

- ・ロビーの備品、書籍などの要望を取り入れ居心地の良いロビーの環境を整えた。
- ・日常のかかわりの中から聞こえた若者の声を基にした事業展開を柔軟に取り入れ、若者の「やりたい」を形にすることができた。

③若者支援施設における日常的な要望の把握

日常的に実施しているロビーワーク及び窓口対応での直接的な聞き取り等によって若者を中心とした市民のニーズを把握した。

(ウ) 事業報告等

指定管理業務協定書に基づき、月次業務報告書を（翌月 15 日）提出した。

(エ) 札幌市等の検査対応

①指定管理業務「業務・財務検査」

令和 6 年 2 月に全施設を対象とした業務・財務検査を実施した。

②指定管理業務「業務検査」(随時)

令和 6 年 2 月に各施設で実施の事業等の状況確認を含めて検査を実施した。

③当法人内部監査

令和 5 年 10 月に実施した。金銭の取り扱いや備品管理等、他セクションの管理者より第三者視点での監査を実施した。

《実施状況等》

①②ともに、結果は、「適正に実施している」との通知を受けた。

また、当法人内部監査においての結果は適正であった。

(2) 労働関係法令遵守、雇用環境維持向上

ア 労働関係法令遵守、

- (ア) 基本的な労働契約、賃金等を遵守し、労働時間、休息、休暇、時間外労働については、勤怠管理システムを活用した管理を行い、就業規則に沿い適正に管理し、休務取得及び労働時間の適正化を徹底した。
- (イ) 職員の体調管理維持やリフレッシュを図ることを目的として年次有給休暇やリフレッシュ休暇の取得促進を図った。
- (ウ) 年 10 日以上 of 年次有給休暇が付与される労働者（管理監督者を含む）については、年 5 日以上 of 年次有給休暇を計画的に取得した。

イ 雇用環境維持の持向上

- (ア) 職員一人ひとりのライフスタイルに合わせた働き方が継続できるように可能な範囲で配慮に努めた。
- (イ) メンタルヘルス・ハラスメント・育児休業・出産時育児休業、法令違反行為に関する通報（公益通報）等の窓口を設置し、雇用環境の維持に努めた。
- (ウ) ハラスメント防止要領を制定し遵守した。
- (エ) 常勤全職員を対象としたストレスチェックを実施した。また、産業医契約を締結し、メンタルヘルス不調の職員に対する面談体制を整えた。
- (オ) 障がい者雇用を推進し若者支援施設に配置した。
身体障がい者及び精神障がい者 4 人の職場限定職員及び専門指導員を配置した。業務内容としては、受付窓口や軽易な経理事務、相談等を担った。
- (カ) コンプライアンスに対する基本的理解の促進と遵守の強化、徹底を目的に研修を実施し、職員の共通理解を図った。

(3) 施設・設備等の維持管理業務

ア 総括的事項

(利用者の安全確保、市民サービス向上への配慮、連絡体制確保、保険加入)

(ア) 施設、設備等の維持に関する管理

関係法令に基づき、施設、設備、備品等の機能を良好な状態の維持管理に努めた。市民の利用に支障が生じないように、施設、設備、備品等の機能等を良好に維持管理し、日常点検やメンテナンスを徹底した。

(イ) 利用者の安全管理

施設利用者のみならず、近隣住民や歩行者、その他職員を含めた施設運営にかかわる全ての者の安全確保に努めた。また、施設内外の破損・劣化箇所については、札幌市に状況を報告し適正な修繕等を実施した。

(ウ) 災害・救急時の対応・連絡体制の確保

緊急連絡網及び自衛消防組織を作成（設置）し有事に備えた。
また、開館時間及び閉館時間ともに必要に応じて、適正な対応と連絡体制の確保を徹底した。

(エ) 損害賠償保険

仕様書に適合した保険に加入した。また、各事業については行事参加者傷害保険レクリエーション保険包括保険に加入し不測の事態に備え安全性を確保した。

(オ) 市民サービスの向上

貸室予約は、従来からの窓口と電話での申し込み方法に加え、インターネット予約を継続した。導入から 1 年が経過し、利用者の利便性が向上した。

イ 施設・設備等の維持管理

(ア) 設備、備品の維持に関する管理

・ 第三者への業務委託

専門的な技術を要する業務は承認に基づき市内企業へ第三者業務委託を行った。

清掃業務（日常清掃、定期清掃）、機械警備業務、暖房給湯設備保守点検、消防設備等保守点検業務、オイルタンク漏洩点検業務、消防設備点検、受水槽清掃及び水質検査業務、除排雪業務、体育室ウレタン塗装清掃業務、建築基準法第 12 条に係る定期点検業務を実施した。

専門的な技術を要する業務は承認に基づき市内企業と第三者委託を行い適正に履行した。また、計画的な実施とし、施設運営及び利用者に支障をきたすことがないように配慮し適正に履行した。

(イ) 施設及び設備の保守点検業務 (Youth+宮の沢を除く)

- ・ 日常点検

利用者の安全と利便性の確保を目的に、施設内外の日常点検を行い、事故等の未然防止と備品等の破損や劣化の早期発見に努めた。

- ・ 定期点検

消火器点検、暖房給湯設備点検等においては、専門の業者への第三者委託を実施した。

- ・ 設備等の機能維持

利用者の安全と利便性を確保し、破損や故障が発生した場合は、速やかに対応した。

(ウ) 修繕

設備等の機能を維持し、利用者の安全と利便性を確保し、破損や故障が発生した場合は、速やかに対応した。また、軽微な修繕及び施設や敷地内の美化や軽微な修繕については職員が手がけ、常に安全・安心かつ清潔な施設環境を維持し、市民へサービスを提供した。

(エ) 廃棄物収集処理

経年劣化等により不要備品となったものについては、札幌市の条例および施行規則、その他の関係法令を遵守した。

ウ 防災

(ア) 防災訓練

各施設において、有事に備え、総合避難訓練を実施した。

Youth+センターは、入居施設合同による訓練に参加予定だったが、昨年度に引き続きコロナ禍により合同訓練は中止となったことから、単独での訓練を実施した。また、Youth+宮の沢は、複合施設であることから生涯学習センターとの合同による訓練を実施した。

(イ) 防災訓練の実施状況

施設名	実施内容
Youth+センター	・ 7 月・9 月 (総合避難訓練) 9 月は雨天のため中止 ・ 2 月 (消火器点検)
Youth+アカシア	・ 4 月・12 月 (総合避難訓練) ・ 6 月・12 月 (消防設備点検)
Youth+ポプラ	・ 4 月・12 月 (総合避難訓練) ・ 6 月・12 月 (消防設備点検)
Youth+豊平	・ 4 月・12 月 (総合避難訓練) ・ 6 月・12 月 (消防設備点検)
Youth+宮の沢	・ 8・12 月・3 月 (生涯学習総合センターとの合同訓練)

(4)事業の計画及び実施に関する業務

ア 若者の自立支援事業

(ア) 若者の自立支援に関する情報及び提供ならびに自立支援ネットワークの構築

自立支援機関の開拓と連携について、オンラインを併用し、相談登録者一人ひとりの状況に応じて新たな支援機関含めて連携・協同を進めた。

自立支援に関する情報提供について、若者支援施設のホームページ上に置くさっぽろ子ども・若者支援地域協議会のページにおいて、構成機関等の情報を一体的に管理し、情報を配信した。また、SNS を活用して、自立支援プログラム並びに利用者の声を広く発信した。

一人ひとりの相談者を支える支援者を丁寧につなぐことを通じて、若者や社会のニーズに対応した。

《自立支援ネットワーク》

さっぽろ子ども・若者支援地域協議会を中心とした、自立支援ネットワークの構築を図った。(令和5年度構成団体数:23 団体)。団体に関する情報は、ホームページで公開している。また、今年度の自立支援プログラム実施に伴う応援企業の連携数は42 社であった。

(イ) 困難を有する若者の自立に関する相談

総合相談窓口を設け、困難を有する若者とその家族及び関係者からの相談に応じた。また、Youth+センターに複数の有資格者を配置し、適切なアセスメントを行い、進路や就労に向けたキャリア支援のほか、心理・生活面も含めた総合的な相談支援の環境を整えた。活動センターにおいても、Youth+センターと密な連携を図り、チームで相談支援を行った。

①相談対応時間について

Youth+センターでは、日曜日・祝日・休日及び休館日を除き、電話・来所・SNS での相談窓口を10 時～18 時まで開設した。また、活動センターでは、10 時～22 時の開館時間の中で柔軟に相談対応を実施した。

②相談環境について

原則個室にて相談を行った。また、相談者の希望に応じて、ビデオ通話やLINE 等による相談を実施した。

③相談者の登録及び相談内容の記録、利用計画書の作成について

初回対面相談時に、相談利用規約を相談者に紙面で渡し、説明を行った上で本人の承諾・署名によって、個別カルテを作成し、計画的に支援を行った。

【相談実績】

- ・総合相談：1,067 件（前年度比 114%）
- ・新規登録者：353 人（前年度比 90%）
- ・継続相談：7,322 件（前年度比 104%）

登録者個別の支援計画を基に、活動センターでの事業や学習支援事業、その他ヤングケアラー相談サポート事業等他の委託事業を活用し、早期支援と困難の深刻化を防ぐための取り組みが効果的に連動した。

総合相談件数は前年度比 114%、継続相談も前年度比 104%となり、相談件数は過去最多件数だった。また、10 代の相談が増加していることから、進路未決定のまま学校を卒業する生徒や中退する生徒の新たな居場所としての認知が広がり、切れ目の無い支援につながった。

（ウ）自立支援プログラム等の実施

グループワークのスキルを有するユースワーカーを中心に、継続的な個別相談と組み合わせ、自立支援プログラムを実施した。

- ・継続相談の実施について、相談者とともに立てた利用計画に基づき行った。
- ・プログラムの実施については、コミュニケーション能力の向上や就労準備プログラム、家族の会を実施した。

相談者の情報共有については、個人情報保護に十分配慮し、利用規約の同意を得た上で継続的な相談支援を行った。

【実績】

- ・自立支援プログラム利用者のべ数：6,991 人（前年比 111%）

特に 10 代の相談者の増加に伴う支援ニーズの多様化やプログラム参加への不安が高まっている状況に対して、柔軟に内容や回数を見直しを行い、企画・運営することができた。

支援プログラム利用者数は、10 代向けプログラムが増加傾向にあり、全体的にも微増した。一部オンラインでの実施を継続しつつ、参加者のニーズを受けて対面での活動を本格化したことにより、対人コミュニケーション能力の向上にも効果が表れていた。

引き続き次年度においても、参加者のニーズを的確に把握して内容を見直し、よりよいプログラムを提供していく。

(エ) 若者の社会体験機会創出事業

企業等開拓員を配置し、応援企業へは職場体験先の提供だけでなく職業講話への協力を依頼し、企業に困難を有する若者の理解を深めていただき、若者を支える地域の基盤づくりを推進した。

【実績】

- ・受入企業獲得数：42 社（前年比 63%）
- ・職場等体験参加のべ人数：839 人（前年比 73%）

経済活動が戻り、職種によらず人手不足を理由に職場体験が実現しなかった企業が複数あり、参加者が減少した。また、10 代の多くは就労への不安を強く抱えており、職場体験よりも居場所支援や学習支援の優先度が高くあったことも要因として挙げられる。

相談者一人ひとりのニーズに対し、サポーターの持つスキルや機会をコーディネートすることで、着実に数字を上げていく。

(オ) 中学校卒業者等に対する進路支援事業

進路支援担当者を配置し、市内全中学校や高等学校等を訪問し、事業の主旨や実績等を説明した。学校側の要望を受け、児童・生徒向けの授業や教職員の会議・研修等にも対応した。

【実績】

- ・情報提供生徒数：179 人（前年比 459%）
- ・支援件数：2,077 件（前年比 164%）

特に学校管理職への支援実績の周知が功を奏し、早期の段階で情報提供を多数いただくことができた。これまでの支援実績と現在の支援内容が、学校の課題意識と合致した成果である。

授業等の依頼も増加傾向にあることから、更なる事業展開が見込まれる。今後は、成果をフィードバックし、学校との連携を進めていく。

(カ) 自立支援事業の広報

相談部門専用のホームページサイトを開設するほか、SNS はプログラム実施のたびに更新し、最新情報が閲覧・収集できる環境を整備した。

自立支援に関するセミナーを行ったほか、国や他の自治体、関係機関等からの講師の派遣依頼にも応じ、自立支援事業含めた札幌の若者支援の取り組みを広く発信した。

【実績】

総合相談のうちホームページが情報元であったケースは 27.2%（前年度比 112%）で、過去 10 年で最も多い割合だった。

- ・セミナー等参加者のべ数：312 人（前年度比 77%）
 - ・自立支援事業を中心とした講師派遣参加者のべ数：2,333 人（前年度比 79%）
- 引き続き、支援機関はもとより国や他の自治体からの講師依頼に応え、新規利用者の獲得につなげていく。

(キ) その他の若者の自立支援に向けて必要な事業

若者の社会的自立促進事業

中途退学者等を対象とした高等学校卒業程度認定試験や高等学校再入学等に向けた学習支援を行った。なお、今年度の参加者は発達特性や体調に不安を抱える若者が多く、モチベーションの低下も見られたため、「さっぽろ学びなおしネットワーク」に所属する発達特性の対応に強みを持つ学習コーディネーターとケース会議を行い、対策を講じた。

【実績】

- ・新規相談者数：32 人（前年度比 103%）
- ・学習支援実施回数：220 回（前年度比 138%）
- ・参加延べ人数：408 人（前年度比 104%）

学習会場は 9 会場に増加し、通いやすい場を提供することができた。また、体調やコミュニケーションに不安を抱える若者には、学習のみならずソーシャルスキルトレーニングも合わせた対策を講じるなど個々のニーズに合わせた総合的な支援体制を整えた。

イ 若者同士の交流促進事業

(ア) 若者同士の交流に関する情報の収集及び提供ならびに若者団体ネットワークの構築

①若者のロビー利用人数（5館計）：37,903人

（令和4年度：26,554人/前年度比：142.7%）と前年度に比べて、11,349人増加した。

②利用者証の発行

今年度の若者の利用証発行は、13,470人

（令和4年度：11,873人 /前年度比：113.5%）と前年度に比べ1,597人増加した。

③若者団体ネットワーク

登録若者団体「Youth+NET」数は、1,790団体

（令和4年度：1,353団体/前年度比：132.2%）と前年度に比べ432団体増加した。

<実施状況等>

「Youth+の賑わいを取り戻す」を基本方針に、若者支援施設の足場を固めるために施設での交流に注力した。居心地の良い環境づくりを行い、若者の利用証発行の増加及びロビー利用者増加し、施設の賑わいを取り戻した。

(イ) 若者同士の交流に関する相談

若者の抱える問題や課題の早期発見につながるよう若者一人ひとりに寄り添った。また、初めて利用する若者からは、気軽に話せる人や場所がなかったというこれまでのコロナ禍の中で生活スタイルの変化などから、新たな仲間や居場所を必要としている状況が垣間見え、対人関係や進路に関すること、学校や家庭環境に関することなど多岐に渡った。

その他、若者からも自身のやりたいことを形にしたいという相談が寄せられ、若者同士の横のつながりや若者団体同士のつながりが生まれる機会の提供を行った。コロナも5類に移行し、ロビー利用の需要がさらに高まり、賑わいを取りもどしつつある状況が見られた。

<実施状況等>

若者が語る思いやニーズに耳を傾け継続的な支援に努めたことにより、気軽に相談が可能な環境が整い、ロビーの利用人数が増加しYouth+の賑わいにつながる成果となった。

その他、困難を抱える若者については、自立支援部門との連携により、個人の必要な支援へとつなげ寄り添い対応し若者のニーズに応えた。

※若者のロビー利用人数（5館計）：37,903人（前年度比：142.7%）

今後に向けては、ロビーでのミニイベントの活性化を目指し、ユースワーカーが若者とのかかわりを持つ機会をさらに増やし、ロビーワークの充実を図る。また、日常的なかかわりを深めていく中で、相談につながりやすい居心地の良い空間づくりに注力し、さらには、利用者同士のつながりが持てるように積極的に働きかけていく。

（ウ）交流促進プログラムの開催

若者同士の交流促進においては、居場所型、イベント型、グループ育成型と目的別に事業を展開し、段階を経て、交流の促進が展開するプログラムを一人ひとりのニーズに併せて提供した。また、SNSの発信を定期的に行い、すべての若者が気軽に参加できるイベントを毎月実施した。

【主な事業】

施設名	主な内容
Youth+センター	・居場所型（みんなのイラスト部他 123回実施） ・居場所拡充型（わかもの寺 27回実施） ・グループ育成型（リーブル他 17回実施） ・イベント型（センター祭他 2回実施）
Youth+アカシア	・居場所型（アカシアタイム他 115回実施） ・居場所拡充型（北光いところち他 54回実施） ・グループ育成型（着物部他 20回実施） ・イベント型（哲学サロン他 8甲斐実施）
Youth+ポプラ	・居場所型（推しトーク他 68回実施） ・居場所拡充事業（Youth+ライブラリ 4回実施） ・グループ育成型（ゆるり他 17回実施） ・イベント型（おでかけ！さんぽぷら他 7回実施）
Youth+豊平	・居場所型（ふりーたいむ他 142回実施） ・グループ育成型（モルック部他 15回実施） ・イベント型（大感謝祭他 2回実施）
Youth+宮の沢	・居場所型（アクティ部 他 52回実施） ・グループ育成型（若者放送局 15回実施） ・イベント型（宮の沢ライブ 1回実施） ・他団体協働型（カフェふうしゃ 18回実施）

<実施状況等>

若者の声を取り入れた事業を数多く実施したことにより、参加意欲も高まった。また、日常的な交流の広がりを見せたことに伴い、事業参加の増加につながったことは評価できる。事業実施に向けては、新規参加の獲得はもちろん、継続した参加へとつながり、Youth+の賑わいを取り戻すためのきっかけとなるよう定期的な SNS 発信に努めた。

引き続き、若者の「やりたい」を実現させるための事業の企画の充実させていく。貸室利用の若者へのロビー利用を促していくことで若者とユースワーカーの接点を増やし、そのかわりをおして目的を持って貸室を利用している若者の持つ力を事業に活かした事業展開を目指していく。

また、ロビーカフェ機能の拡大を図り、ロビーの賑わいにさらにつなげていくとともに、その中から聞こえる若者の声を活かしたプログラムの展開を目指していく。

ウ 若者の社会参加促進事業

(ア) 若者の社会参加に関する情報の収集及び提供ならびに地域活動ネットワークの構築

若者の活動を地域とつなげる機会を提供し、若者の力を地域につなげ世代間のつながりを生み出すことができるように働きかけた。

《地域活動ネットワーク》

地域若者サポーターへの新規登録者

52 人(令和 4 年度：27 人/前年度比：192%)

施設利用から地域若者サポーターの登録につながるケースも見られた。

サポーターのスキルやネットワークを活用し、若者のニーズの把握とそれに応じたプログラムを提供した。

《主な実践例》

〔センター〕 近隣の NPO 法人主催のハロウィン事業において、子どもが地域を回る拠点の施設の一つとして連携した。

〔アカシア〕 町内会での役割を担い地域町内会役員会に参加した。若者の力が活用される地域のニーズの把握に努め、若者の活動を PR する場を設けた。

〔ポ プ ラ〕 子ども食堂に関心のある若者のボランティアとともに参加し、小・中学生と関係づくりや民生委員と地域の若者に関する情報交換を行った。

〔豊 平〕花壇整備や近隣公園でのお祭り、近隣児童会館と連携事業など、地域と協働した様々な活動に若者ボランティア（地域若者サポーター）と参加した。地域の子ども若者団体と意見交換を行う「つきさっぷプロジェクト」では、Youth+豊平の活動周知のみならず地域の情報収集の機会として参加した。

〔宮 の 沢〕西区の商店街や福祉法人が所属するネットワークに加入し、Youth+の活動への理解を得た。また、西区内にあるラジオ放送局から若者の地域活動事業への参加依頼の情報を受けたことにより、地域活動の拡大につながった。

<実施状況等>

地域にとって有益な若者の社会参加に関する情報を提供するとともに、若者の活動を地域にPRするなど地域との連携強化につながった。

地域若者サポーターの登録を積極的に働きかけたことでその認知度も徐々に向上し、新たなサポーターの獲得や登録人数や協働事業につながった。

今後に向けては、地域や町内会などと若者や若者団体とのネットワークの構築し、若者のニーズと地域のニーズのマッチングなど継続した関係性を維持し、ボランティアグループの立ち上げなど若者が地域や身近な社会課題に興味関心持ち、社会参加への意識が高まり、若者の力を発揮することができるよう働きかけていく。

（イ）若者の社会参加に関する相談及び啓発

①若者が社会や社会課題に対して興味関心が持てる啓発活動に取り組み、社会参加のきっかけづくりを行った。

②若者のニーズに応じ、ボランティア活動など社会とのつながりを持つ機会を提供した。また、地域のニーズと若者のニーズが合致したイベント実施の橋渡し役を担った。

③ユースワーカー養成講座を実施した。ユースワーク、ユースワーカーに興味関心のある大学生を対象に、ユースワークの基本的理解の学びやグループワークを行い、ユースワークの啓発に取り組んだ。

<実施状況等>

社会とのつながりを求める若者やボランティア活動に興味関心の高い若者へ適宜、活動の場を提供し、若者の社会参加への意識の醸成につながった。

今後に向けては、若者の主体性を発揮させ地域等との連携強化を図り、地域の団体等と若者が相互に補完し合える関係性の構築に努めていく。

(ウ) 地域の社会活動への参加促進（社会参画意識向上人材育成プログラム）

地域若者サポーターとの協働のもと、若者の地域及び社会への参画活動の機企画、運営を行った。

《主な実施事業》

〔センター〕・神宮例大祭他：8 回実施

〔アカシア〕・北光第 5 分区町内会夏祭り他：10 回実施

〔ポ プ ラ〕・ここロードごみ拾い他：12 回実施

〔豊 平〕・第 12 区分町内会花壇植込み他：10 回実施

〔宮 の 沢〕・西町地区夏祭り盆踊り大会他：2 回実施

＜実施結果＞

地域から感謝の声をいただき、若者の地域への関心度が緩やかではあるが増加した。加えて、地域においても継続してかかわることで、若者の要望や提案を受け入れる機運が高まる機会を提供できたことは成果である。

今後に向けては、さらに地域との連携を強化し、若者が主体となる活動の展開等、若者の思いや力が発揮できる機会を創出していく。

(エ) 育成プログラムの開催

若者の社会参加・参画への興味関心を高め、若者自ら参加・参画意欲を持つ機会を提供するために、目的別による初期体験型、社会意識ボトムアップ型、地域への参加型の育成プログラム、プロジェクト型事業を実施した。

【主な事業】

施設名	主な内容
Youth+センター	・ 初期体験型（装飾委員会 22 回実施） ・ 社会意識ボトムアップ型 （みんなのカタラバ他 18 回実施）
Youth+アカシア	・ 初期体験型 若者チャレンジ応援隊 11 回実施 ・ 社会意識ボトムアップ型 7 回実施
Youth+ポプラ	・ 初期体験型（利用者モニタリング 1 回実施） ・ 社会意識ボトムアップ型 （“き”になるニュース他 10 回実施）
Youth+豊平	・ 初期参加型 FM アップル他 6 回実施 ・ 社会意識ボトムアップ型 繋がる。広げる。広がる。 4 回実施

施設名	主な内容
Youth+宮の沢	・ 初期体験型（ラジオ部 31 回実施） ・ 社会意識ボトムアップ型 （ちえりあフェスティバル 2023 実行委員会 9 回実施）
プロジェクト	・ プロジェクト型 （ユースワーカー養成講座他：1 回 3 日間実施） ・ プロジェクト型及び他団体協働型 （Youth+にじみず：12 回実施）

<実施状況等>

社会課題を自分事として考え、若者自身が自らの意見を自由に表明できる場を創出し、社会参加・参画の意識を醸成した。

今後に向けては、さらに若者の興味関心のある身近な社会課題等を取り入れるとともに若者自身がどのようにかかわることで効果を発揮することができるかなどをともに考え、スモールステップによる成功体験を積み重ね若者の自己有用感を高めていく。

（オ） その他の社会参加に関連する事業等

①次世代のまちづくり人材育成事業

当法人他部門が受託した当該事業を活動の場に、まちづくり活動におけるグループファシリテーターとして参加し、会議の活性化を支援した。

また、まちづくり活動を行う大学生世代の活動発表及びPRイベント実行委員会の支援を行った。当法人内外と連携し、若者が社会との接点を持ち、社会参加・参画意欲を高める機会を提供し、事業の活性化に貢献した。

②福祉に理解のある企業との連携

自立支援事業の一環として、若者の自立支援に理解のある企業による清掃業務のジョブ・トレーニングのサポート（作業指導）をいただいた。当法人の取り組みとして障がい者雇用を推進した。その他、自立支援事業の就労支援については、就労先への協力を仰ぎ、連携をさらに深め確保した。

③若年無業状態の若者の仕事体験

自立支援事業の一環として、「若者の社会体験機会創出事業」で記載した他、当団体が受託したイベント（札幌市水道記念館フェスタ・札幌市下水道科学館フェスタ等）や Youth+センターや Youth+ポプラにおける清掃業務を若者の職業訓練事業として実施した。当財団独自に仕事体験の場を創出し、就労に向けて挑戦しやすい場を拓き、次のステップにつなげ若者の就労への意欲を促した。

エ 若者の社会的自立に関する調査・研究事業

利用証発行時に、若者へのアンケート調査を実施した。

（ア）アンケート（利用者登録時アンケート）調査内容

- ①若者にとっての居場所の有無と充実感
（＝社会的つながりや心理的な安定性）
- ②生活の充実度とよりよい生活に向けて必要な支援
（若者の生活満足度や幸福感）
- ③心理的な支援の需要
（若者の相談に対して、どのようなサポートが必要か）
- ④インターネット利用の動機
（若者の情報収集や、コミュニケーションの方法についての理解）

＜実施状況等＞

上記の４点について調査を行い、若者支援施設運営協議会にて報告し、アンケートの結果を基に協議し、施設運営に活かされている。

（イ）他都市との連携

ユースワーカー協議会に所属する、横浜市・京都市・神戸市、名古屋市の政令指定都市の各団体と連携し、オンラインを用いた交流サロンや職員向けの学習会、意見交換会を実施した。また、ユースワーカー協議会事務局メンバーが来札した際には、若者支援における情報交換、意見交換を実施した。

（ウ）研究会への参加

昨年度に引き続き、法政大学平塚科学研究会へ実践者として参加し、対面及びオンラインを用いた研究会にて若者支援における場の価値について協議を行った。

オ さっぽろ若者支援ネットワークの構築事業

(ア) 居場所拡充事業（ミニ Youth+）

各 Youth+において、地域の中に新たな居場所となる拠点をつくり、Youth+の居場所機能を上げた。地域におけるパートナーの獲得を目指し居場所拡充事業への理解が得られるように推進した。また、独自の居場所づくり評価尺度に添い、地域との協働型へとユースワークの拡大に努めた。

(イ) 学校教育機関との連携（学校内ユースワーク）

困難な状況に陥る前の未然防止や早期発見を目的に在学中から切れ目の無い支援体制の構築のために出張ユースワークとして、定時制高校や単位制高校を中心に訪問し、ユースワークを展開した。

連携校にて個別面談や授業等をとおして生徒との関係構築及び教員との情報共有が順調に進んだ。また、新たな学校からの授業の依頼が増加していることからユースワークやYouth+に対する認知度が向上してきている結果と捉えている。

(ウ) 地域へのアウトリーチ（リビングカーの活用）

ユースワークを必要としている若者に早期に出会うためにリビングカーを活用し、地域を拠点とした居場所づくりや若者が集まると想定される公園、その他学校や児童会館等の関連施設を訪問する巡回型アウトリーチを行い若者との出会いや関係づくりに注力し、様々な場所で交流が生まれた。

またこども・若者と接点を持つ教員や地域の民生委員、子ども食堂等関連団体との情報交換や連携を行うとともに、若者にとっての居心地の良い居場所づくりを推進した。

年間をとおして、様々な場所へアウトリーチを行うことで、多くの若者と出会い、交流が生まれた。また、若者のニーズや必要としているサポートなど個々に寄り添った結果、関係性を築き継続したかかわりを持つことで若者にとっても有益な居場所の創出につながった。

(エ) こども若者の居場所いところち＜再掲＞

家庭からの自立を必要とする若者や児童養護施設等を退所した若者への自立支援を目的とし、生活体験および自立に向けたサポートを行った。また、一般社団法人ソーシャルペダゴジーネットとの協働により、生活体験及び多種多様な体験活動の機会やリビングカーを活用し物資等の提供が可能となり、若者が必要とするサポートにつなげた。

《実施状況等》

一般社団法人ソーシャルペダゴジーネットとの協働により、若者が必要とするサポートにつながる仕組みが構築された。

(オ) ヤングケアラー等の複雑化する困難の対応＜再掲＞

当法人こども事業課が受託したヤングケアラー相談サポート事業について、家事や介護を担う 18 歳以下のヤングケアラー当事者への支援として、電話や LINE による相談及び定期型サロン、出張型サロンの開催を連携して実施した。スクールソーシャルワーカーや家庭児童相談室等から若者の情報を得て、本人との関係構築を図り、必要に応じた支援を継続的に行った。

若者支援施設の連携先である学校等からの協力により、生徒情報を得る中で、必要な生徒への支援等につなげた。

《実施状況等》

必要な生徒への支援等について考え行動する機会を得られた。また、授業での生徒への広報活動等をとおして、ヤングケアラーへの意識の醸成に努めた。

【実績】

- ・出張型サロン（Youth+会場）：7 回・参加者：18 人
- ・若者支援施設内対面相談：181 回

(カ) 市民との協働

自立支援事業、交流促進事業、社会参加促進事業のいずれの事業においてもコレクティブインパクトの意識を持ち、市民との協働、連携を前提とし、基本姿勢を職員に定着させた。

(キ) さっぽろ青少年女性活動協会事業の活用

居場所拡充事業、アウトリーチ推進事業（カフェ部事業及びフードパントリー事業）において、子どものくらし支援コーディネーターや児童会館、こども事業課等他課職員と連携を行い、学齢・児童福祉法のはざまを埋める見守り活動をさらに強化した。

また、リビングカーを活用し夜間時間帯の市内各所への巡回活動や児童会館中・高校生夜間利用ふりーたいむへの訪問等をとおして、若者支援施設では出会えていない若者とかかわりを持ち、Youth+の認知度を高め、今後の若者の居場所となりつなげる機会を提供した。

また、こども・若者部門からさらに企画事業課、野外活動課を含め、定時制高校や児童相談所との連携事業を展開した。

その他、当法人の児童会館や各種事業担当者との、定期的なミーティングをとおして、若者へのアプローチや事業展開を検討、また、研修を行い横断的な取り組みを継続して進めた。

様々な取り組みをとおして、当法人の各部門が連携することにより得られる効果を最大限に発揮し、横断的な事業連携をとおして、若者が抱える課題や社会課題の解決の一助になったと捉えている。

カ 数値目標

【数値目標達成状況】

No.	項 目	目標数値	実績
①	若者等登録者数	16,000 人	13,470 人
②	若者等登録者の延べ利用人数	200,000 人	191,704 人
③	新規に相談をうけた自立支援登録者数	400 人	353 人
④	自立支援登録者のうち進路決定者	345 人	267 人
⑤	交流促進プログラムに参加した若者の人数	5,000 人	7,747 人
⑥	社会活動及び育成プログラムに参加した若者の人数	600 人	2,650 人

(5)施設利用に関する業務

ア 受付

施設利用についての案内、利用証の発行、貸室利用の申込受付、問い合わせ等の業務を適切に行った。また、丁寧な窓口対応や改善等を行い市民サービスの向上に努めた。

イ 有料施設利用状況

(ア) Youth+センター

<利用実績等>

前年度と比較すると大学のサークル活動やダンス練習等を目的とした団体の利用が定着した。今後は、現在利用している団体との関係性を維持するとともに、利用団体が固定化しないよう、新規利用団体の獲得を目指していく。また、利用目的が異なることから、特に、防音の点については、他団体との共存を考えていくことが課題である。

▽ 不承認 0 件、取消 127 件（うち還付 35 件）、減免 0 件

(イ) Youth+アカシア

<利用実績等>

大学生の利用団体が多いため、大学の長期休み期間は一日をとおして稼働率は高い状況であるが、それ以外の期間では、午前の体育室以外の稼働率上昇の余地がある。

▽ 不承認 0 件、取消 0 件（うち還付 0 件）、減免 0 件

(ウ) Youth+ポプラ

<利用実績等>

ロビー利用者への案内、アウトリーチ事業の際の貸室利用の周知の結果、昨年度より利用率を増加した。特に、活動に制限のある活動室 1 については、新規団体の意見交換の場としての需要があった。特定の団体が特定の時期に集中した利用が多いことから、時期や団体にかかわらず利用増加につながる効果的な広報活動を検討し、貸室の利用促進に取り組んでいく。

▽ 不承認 0 件、取消 0 件（うち還付 0 件）、減免 0 件

(エ) Youth+豊平

＜利用実績等＞

前年度と比較すると、すべての貸室稼働率が増加した。その要因は、コロナ禍が明け各団体の活動が活発になったほか、近隣施設の貸室予約が取れない団体が若干増えたと考える。今後は、継続した利用につながるように丁寧なかかわりを持つとともにさらに地域に向けて貸室利用の広報活動を強化し稼働率を高めていく。

▽ 不承認 0 件、取消 2 件（うち還付 2 件）、減免 1 件

(オ) Youth+宮の沢

＜利用実績等＞

希望の貸室が予約できない団体には利用用途を聞き取り、他貸室へ案内等、丁寧な対応を行った。また、貸室の整備を行い活動スペースを広げたことや備付物品の入替などを行ったことに好評をいただいた。その他、ロビー利用者に貸室の案内を行うことで、部活動の活動場所としての利用が増加するなど、様々な工夫を凝らし、前年度と比較するとすべての貸室稼働率が増加する結果を得られた。今後に向けても創意工夫を凝らし稼働率を高めていく。

▽ 不承認 0 件、取消 5 件（うち還付 5 件）、減免 18 件

ウ 管理業務に付随業務

(ア) 広報業務

①施設の PR 及び情報提供

X・Facebook の活用

各 Youth+やアウトリーチ事業の活動の様子や事業案内等は、Xを活用し、若者が施設利用や Youth+の取り組みへの興味関心が意欲を高められるように発信したことから、Youth+や事業等に興味を持つ若者の新規利用があるなど SNS の効果を発揮した。また、Xを活用し、Youth+NET としての若者団体の情報発信を行った。

Facebook では、札幌市及び全国の主に大人に向けて、札幌のユースワークや学校連携などの Youth+の取り組みを発信し、異なる対象に対して、X と Facebook を使い分け情報を発信したことで効果を高めた。

その他、若者へ SNS の利用についての聞き取り等を行い、今後の SNS 活用について再検討を行った。

コミュニティ FM 活用

- ・西区コミュニティ FM「三角山放送局」と連携

毎週水曜日に各 Youth+ の若者と共に出演し、企画やラジオ構成を考え、パーソナリティとして若者の思いを発信するとともに、Youth+ の周知を行った。

- ・豊平区コミュニティ FM「FM アップル」との連携

毎月第 4 金曜日に高校世代や大学生のバンドやサークルに所属している若者等と共に出演し、活動の情報発信を行った。

活動の情報発信機会を得て、若者の活動意欲が増進した。

Youth+ の取り組みを市民に発信したことは、理解者を増やす開会として効果的であった。

事業広報

・札幌市内や札幌近隣の高校・大学、関連施設へパンフレット等を配布した。Youth+ 利用促進を図るとともに、事業に関する広報物の配付を行った。広報物は、若者の意見を反映し作成を行うなど、若者の参加意欲が湧くための工夫を行った。

- ・地下鉄駅掲示板にてポスターを 2 回掲示した。

広報物の配布等は、市民や若者に対して Youth+ の取り組みへの認知度の向上に向けて活用した。今後に向けても効果的な広報に取り組んでいく。

②ホームページのウェブアクセシビリティ

札幌市若者支援施設及びさっぽろ子ども・若者支援地域協議会ホームページについては JIS X 8341-3:2016 のウェブアクセシビリティ適合レベル AA 及び一部 AAA に準拠している。また、適宜更新を行い、必要な情報が受け取れるように整備した。また、市民の方が見やすく必要な情報を受け取れるように一部改善し適正に運用した。

エ その他若者支援施設の管理業務に付随する一切の業務

(ア) 利用促進に向けての施設の有効活用

若者がロビー空間のデザインやレイアウト変更に参画する機会を設け、若者の声を反映し整備を行った。また、ロビーを利用している高校・大学生代の若者に対して貸室の案内を行い利用促進に努めた。

また、若者自身が Youth+ に愛着を持つきっかけとなり、今後の利用拡大に期待ができる。

(イ) 札幌市内の企業の活用について

修繕業務、役務業務及び物品購入等において市内の事業者へ積極的な依頼や物品購入を進め、市内企業の活用に努めた。また、業務発注の際には、特定の業者への偏りがないように配慮した。

(ウ) 個人情報の安全な管理体制

当団体における個人情報保護に関する要領及び規定に基づき、適切な取扱いのもと、事業の適切かつ円滑な運営を図り、個人の権利利益の保護に努め、日常的に個人情報にあたる情報の取り扱いがあることを意識すべく、職員の意識向上・管理体制を維持した。また、Youth+センター職員（2 名）が個人情報保護士の資格を保有していることから、Youth+特有の個人情報の取扱いに関する研修を追加で実施した。

2 札幌市若者支援施設自主事業の実施状況

(1) 飲料の販売

ア ロビーカフェ事業

各 Youth+（センター・アカシア・ポプラ・豊平は4月のみ）のロビーカフェ収入については、5月以降、Youth+豊平が自動販売機設置に移行したことから微増に留まった。

5月からYouth+豊平に自動販売機（軽食対応付き）を試行導入した結果、利用者に好評であり、想定以上の売り上げにつながり、手数料収入が増加した。

有料飲料販売は、Youth+豊平での試行導入の結果を踏まえて段階を踏んで他Youth+の導入を検討する。

(ア) 売上 574 千円 (イ) 利用者数 (延べ) 3,980 人

〔内訳〕	(千円)	(人)
施設名	売上額	利用者数 (延べ)
Youth+センター	219	1,474
Youth+アカシア	256	1,804
Youth+ポプラ	82	593
Youth+豊平	17	109
合 計	574	3,980

イ 飲料自動販売機の設置

(ア) (Youth+宮の沢)

売上 234 千円

〔内訳〕	(千円)
項目	金額
売上手数料	163
電気設置料	71
合 計	234

(イ) (Youth+豊平)

売上 279 千円

〔内訳〕 (千円)

項目	金額
売上手数料	239
電気設置料	40
合 計	279

(3)地域若者サポートステーション事業

「さっぽろ若者サポートステーション」〔厚生労働省委託事業〕

(委託事業費 48,973 千円)

キャリアコンサルタントや社会福祉士の常勤スタッフのほか、公認心理師などの専門家を非常勤として配置し、Youth+センターの指定管理事業との協働によって相談体制を強化して実施した。

【対象地域】・石狩振興局管内、空知振興局管内、小樽市

【実績】・新規登録件数：274 人（前年度比 109%）

・就職等件数：133 人（前年度比 95%）

＊サポステ事業該当数値のみを記載

若者サポートステーションの利用者件数は、減少することなく推移している。今年度は、全国の若者サポートステーションのネット広告に札幌が掲載されるなど、相談支援実績が評価されている。

(4)白石区複合庁舎まちづくりイベント広場等管理運営

〔札幌市白石区役所委託事業〕（委託事業費 3,436 千円）

まちづくりイベント広場運営により市民の自主的な活動の場を提供するとともに、Youth+主催事業により地域連携の機会を創出した。

作品展示会や発表会など数多くの利用があり、主催事業では、若者ボランティアの参画により来場者から好意的な声をいただき若者の活動への意欲が高まるなどの成果が見られた。また、若者と地域がつながる機会を提供し、広場の賑わいにつながった。

(5) その他外部からの受託事業

ア 自立支援事業

その他講師派遣等：199 件（1,455 千円）

札幌市内のみならず全国各地の研修会等において、オンライン開催含めて講師を務めた。

【実績】

①講師派遣

札幌市（子育て支援係職員向け研修、要保護児童対策調整機関担当者研修会、社会福祉協議会等）、他都市（北海道、宮城県、小樽市、仙台市、八王子市、豊中市、萩市、宇部市、石垣市等）、高校（教員研修、PTA 研修）、大学（授業）、大学研究プロジェクト等

②会議・委員就任

札幌市（子どものための相談窓口連絡会議、要保護児童対策地域協議会代表者会議、市立札幌大通高校学校評議員会、星友館中学校評議員会、発達障害児者地域生活支援モデル事業企画・推進委員会等）、他都市（道就職氷河期世代専門窓口チーム支援会、全国青少年相談研究集会企画運営委員会等）、こども家庭庁実態調査研究検討委員会、NPO 法人等

③視察・見学

中学校・高校・専門学校・大学教職員、区家庭児童相談室、区保健センター、市教育委員会、他都市（苫小牧市、滝上町、新ひだか町、東京都中央区、京都市、呉市、大分市、呉市、石垣市等）、内閣府、財務省、内閣官房、韓国大邱市等

子ども・若者を取り巻く課題や若者の居場所づくりに関する内容の依頼が多くあった。他都市の政策や新たな取り組みに関わる助言を求められることも多く、実績が認められての結果である。

3 利用者の満足度

利用者満足度アンケートの結果

(ア)実施方法

令和5年度10月1日～10月25日 25日間

若者支援施設を利用している団体へのアンケートを実施した。

- ・期間利用団体数：591 団体に配布
- ・有効回答団体数：518 団体（回収率：88.0%）

(イ) 結果概要

（※別紙 Youth+集計表のとおり・※いずれも、「満足」「やや満足」の合計）

項 目	満足度
システム満足度	93.7%
部屋維持満足度	97.5%
職員接遇満足度	98.6%
総合満足度	99.4%

(ウ)利用者からの意見・要望とその対応（一部対応例）

施設名	意見・対応
Youth+ センター	《意見》キレイな鏡が良い 《回答》気になる場合は職員までお申し付けいただく。
Youth+ アカシア	《意見》 防音について 《回答》 施設改修に関わるため、早急な対応は難しいが、他室のあまりにも大きな音等については、いつでも職員にお声かけいただき、都度ご対応する。
Youth+ ポプラ	《意見》 区民センター等はだが、音響機器（ラジカセ等）を借りる際に料金がかかるのが不満。 《回答》 備品の貸し出しには、札幌市若者支援施設条例・施行規則に則り運営していることからご理解いただきたいとお伝えした。

施設名	意見・対応
Youth+ 宮の沢	《意見》 使用不可となった場合は、利用料金を全額返金に改善を要望。 《回答》 貸室の受付については札幌市若者支援施設条例・施行規則に則り運営していることからご理解いただきたいとお伝えした。
Youth+ 全施設	《意見①》 現状では仮予約3日以内に現金支払いのため、料金の支払いは、（予約金の場合も含めて）当日支払いにしてほしい。 《回答①》 「仮予約の3日以内の支払い」等の貸室の受付に関しましては、札幌市若者支援施設条例・施行規則に則った運営であることを説明。 《意見②》 予約の支払いをクレジットまたは、QRコード決済でできるようにしてほしい。 《回答②》 ネットでの決済、キャッシュレス決済等については、利便性向上に向けて検討し、今後の検討課題材料とさせていただく。

令和5年度 札幌市若者支援施設館内修繕等一覧

別紙1

項目		施設名	金額(円)	完了日
1	玄関ドアガラス取替業務	若者支援総合センター	66,990 円	4 月 28 日
2	女子トイレドアヒンジ修繕業務	若者支援総合センター	52,800 円	5 月 11 日
3	体育室電源コンセント修繕業務	豊平若者活動センター	10,450 円	5 月 16 日
4	勝手口ドア修繕業務	豊平若者活動センター	46,420 円	6 月 27 日
5	シューズロッカー移設固定業務	若者支援総合センター	23,980 円	6 月 14 日
6	ドラム点検および修繕業務	宮の沢若者活動センター	3,740 円	9 月 26 日
7	網戸購入業務	宮の沢若者活動センター	103,400 円	10 月 2 日
8	階段腰壁笠木補修業務	アカシア若者活動センター	20,570 円	12 月 8 日
9	1 階系統温水循環ポンプ異音修繕	アカシア若者活動センター	143,000 円	12 月 12 日
10	階段壁面補修業務	アカシア若者活動センター	99,500 円	12 月 13 日
11	トイレ手洗い排水金具取替業務	ポプラ若者活動センター	48,400 円	1 月 5 日
12	LED 照明器具交換業務	豊平若者活動センター	91,300 円	1 月 31 日
13	窓ガラス取替業務	若者支援総合センター	88,000 円	2 月 5 日
14	冷暖房機修繕業務	若者支援総合センター	177,320 円	2 月 6 日
15	バレーボールネット修繕業務	宮の沢若者活動センター	35,200 円	2 月 15 日
16	4F 女子シャワー室窓修繕業務	宮の沢若者活動センター	83,350 円	2 月 27 日
17	ドアガラス取替業務	アカシア若者活動センター	73,370 円	2 月 2 日
18	アップライトピアノ調律業務	アカシア若者活動センター	115,400 円	2 月 5 日
19	ピアノ調律業務	豊平若者活動センター	28,600 円	2 月 9 日
20	蓄圧式粉末消火器交換業務	若者支援総合センター	77,700 円	2 月 25 日
21	雨漏り受けビニール取付業務	アカシア若者活動センター	23,980 円	3 月 7 日
22	ロビー・活動室 5 ロールカーテン 取付業務	若者支援総合センター	118,800 円	3 月 26 日
合計			1,532,270 円	

札幌市若者支援施設運営協議会設置要綱

別紙 2-1

(目的)

第1条 若者支援施設の指定管理者である公益財団法人さっぽろ青少年女性活動協会は、若者支援施設における管理業務の状況の報告、管理運営水準の維持・向上に向けた協議のほか、若者支援方策の調査研究や全市的な事業を企画するうえでの方向性の検討、事業の評価点検等を行うため、札幌市若者支援施設運営協議会（以下「協議会」という。）を設置する。

2 協議会の組織及び運営について必要な事項は、札幌市と協議のうえ定める。

(協議事項)

第2条 協議会は、以下に関する事項を協議する。

- 1 札幌市若者支援施設管理業務協定書に定める業務の報告に関する事
- 2 若者支援施設の管理運営上の問題点や改善に関する事
- 3 若者支援施設の管理運営に係る各種規程、要綱、マニュアル等を新たに作成する場合の概略に関する事
- 4 札幌市若者支援施設指定管理者業務仕様書において協議会での協議を必要とする旨が記載されている項目に関する事
- 5 若者支援施設の市民サービスや管理水準の維持向上に向けた取組に関する事
- 6 若者支援方策の調査研究や全市的な事業を企画する上での方向性の検討に関する事
- 7 若者支援施設における事業の評価点検に関する事
- 8 その他、若者支援施設におけるソフト事業全般に関する事

(構成)

第3条 協議会は、札幌市、若者支援施設統括責任者、若者支援施設各館の責任者、利用登録若者団体、自立支援機関・登録若者団体・地域団体、外部有識者等の委員で構成する。

(任期)

第4条 委員の任期は2年とし、再任を妨げない。

2 任期途中で退任した委員の任期は前任委員の残任期間とする。

(委嘱)

第5条 委員は、公益財団法人さっぽろ女性活動協会理事長が委嘱する。但し、札幌市職員については除く。

(開催)

第6条 協議会は、指定期間中年3回以上開催する。

- 2 協議会は、委員の半数以上が出席しなければ、会議を開くことができない。
- 3 協議会の内容は記録し、その要旨を札幌市に確認する。また、必要に応じてその要旨を施設内に掲示する。

令和5年度 札幌市若者支援施設運営協議会 委員等名簿

別紙2-2

No	名 前	所 属	構 成
1	荒木 奈美	札幌大学地域共創学群 教授	外部有識者
2	姉崎 洋一	北海道大学 名誉教授	外部有識者
3	高嶋 真之	藤女子大学人間生活学部人間生活学科 講師	外部有識者
4	岩崎 祥太	Youth+センター利用者 利用登録若者団体	利用登録若者団体
5	大倉 はづき	星槎国際高等学校 札幌北センター長	地域団体
6	今井 香奈江	NPO法人麻生キッチンりあん 理事長	地域団体
7	日向 洋喜	NPO法人E-LINK 代表理事	地域団体
8	引地 志保	子ども未来局子ども育成部子どものくらし・若者支援担当課長	札幌市
9	松田 考	指定管理者 若者支援事業 部 長	全体責任者
10	大水 千広	指定管理者 若者支援事業 課 長	統括責任者
11	山名 徹	Youth+センター 係 長	自立支援統括者
12	松本 弘美	Youth+センター 係 長	職務代理者
13	福井 宏充	Youth+宮の沢 係 長	事業・管理担当
14	中根 沙帆	Youth+センター 副館長	館の責任者
15	大口 智	Youth+アカシア 館 長	館の責任者
16	谷口 陽亮	Youth+ポプラ 館 長	館の責任者
17	山口 亜希	Youth+豊 平 館 長	館の責任者
18	安江 真人	Youth+宮の沢 館 長	館の責任者

(所管部局)

1	伊藤 千春	子ども未来局子ども育成部子どものくらし・若者支援担当係長	札幌市
2	渡邊 貴志	子ども未来局子ども育成部子どものくらし・若者支援担当	札幌市

(事務局)

1	佐藤 直美	Youth+センター 主 任	自立支援担当者
---	-------	----------------	---------

(順不同/敬称略)



令和5年度 Youth+ 窓口アンケート集計グラフ

・期間中の利用団体数：591 団体 ・うちアンケート回収数：518 団体 ・回収率：88.0 %

○システム満足度：満足 93.7% （若者：94.7% 一般：91.4%）

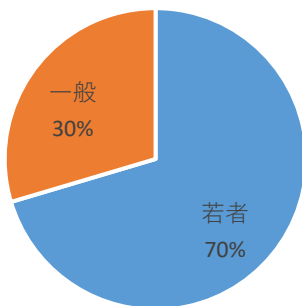
○部屋維持満足度：満足 97.5% （若者：98.1% 一般：96.0%）

○職員接遇満足度：満足 98.6% （若者：99.2% 一般：97.4%）

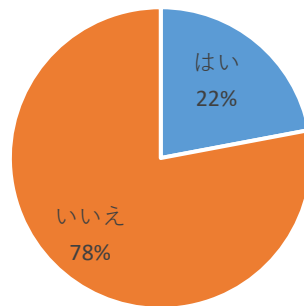
○総合満足度：満足 99.4% （若者：99.4% 一般：99.3%）

※いづれも、満足：「満足」「やや満足」の合計

Q.ご利用区分をお知らせください

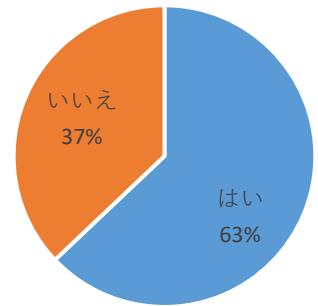


Q.他のYouth+は利用していますか



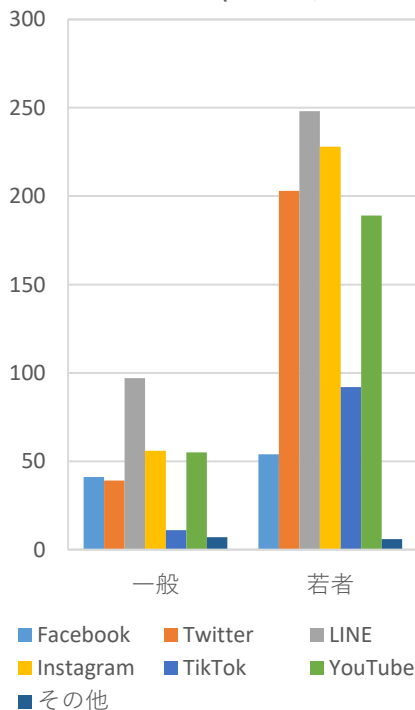
一般

Q.他のYouth+は利用していますか

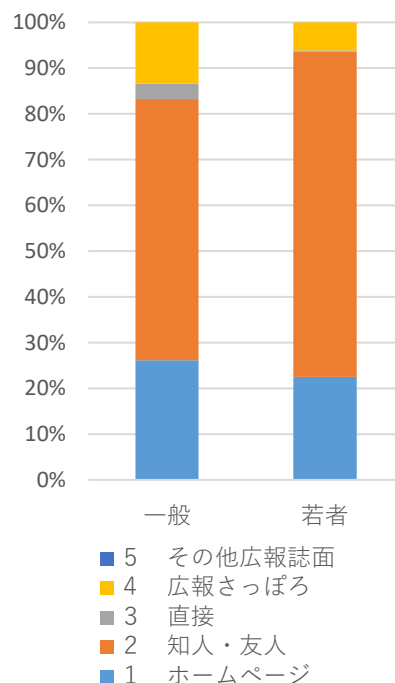


若者

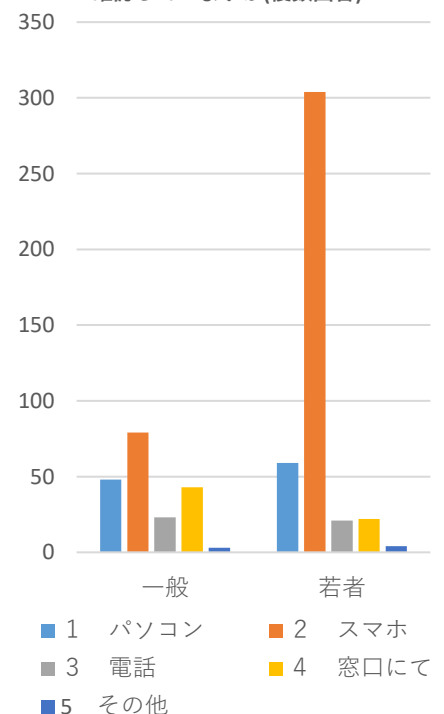
Q.使用しているSNSを教えてください(複数回答)



Q.初めて当施設を知ったきっかけは何でしょうか



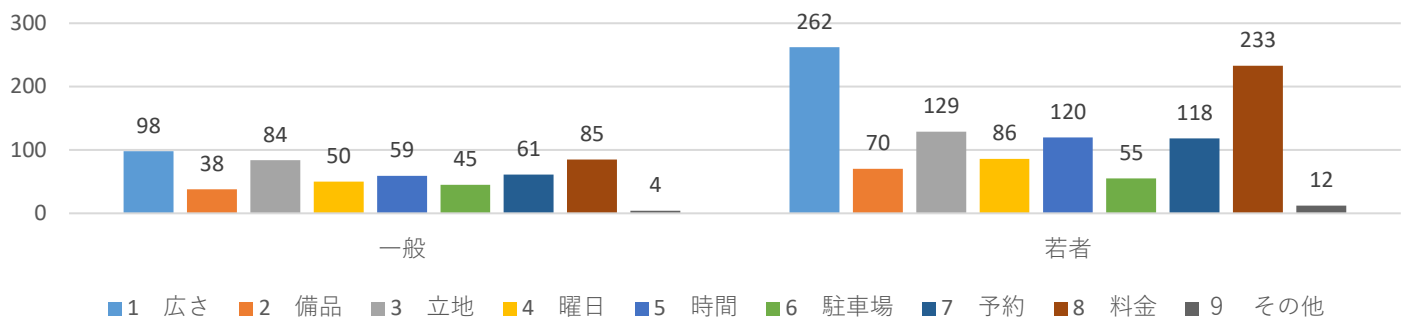
Q.空き状況をどのように確認していますか(複数回答)



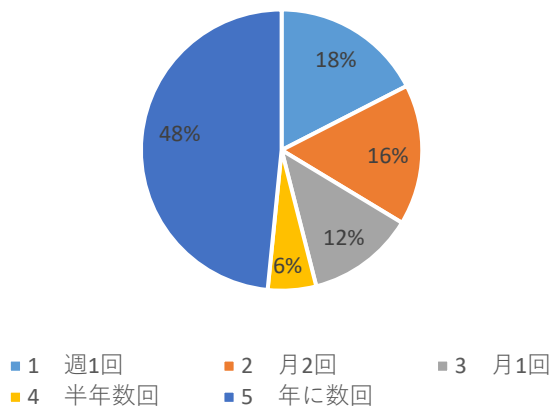


令和5年度 Youth+ 窓口アンケート集計グラフ

Q.施設を選ぶときに重視すること

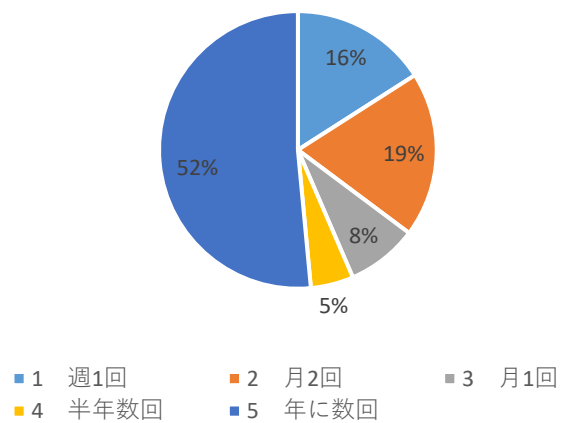


Q 施設を利用する頻度



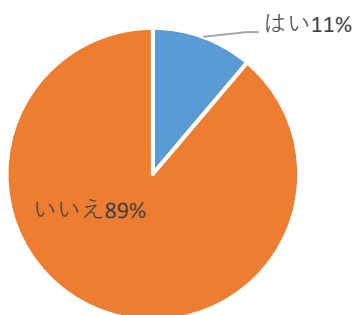
若者

Q.施設を利用する頻度



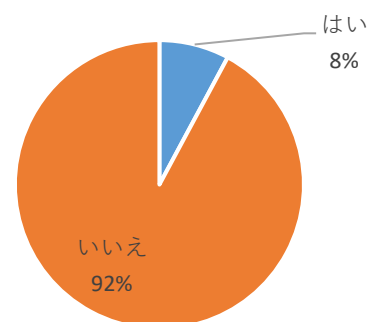
一般

Q.イベントに参加したことがある



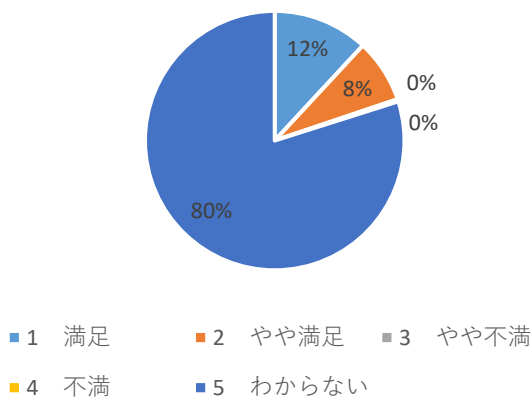
若者

Q イベントに参加したことがある



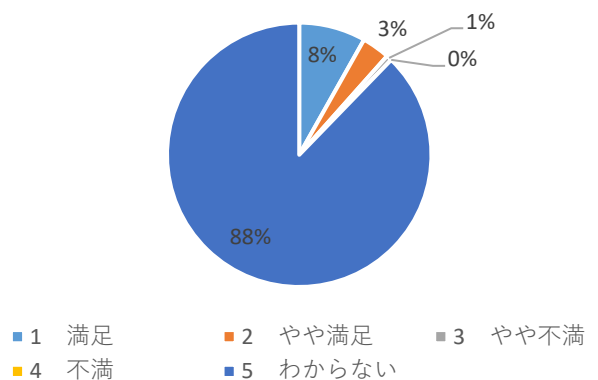
一般

Q.イベントについてどう思いますか？



若者

Q.イベントについてどう思いますか？



一般



令和5年度 Youth+センター 窓口アンケート集計グラフ

・期間中の利用団体数：126団体 ・うちアンケート回収数：118団体 ・回収率：93.7%

○システム満足度：満足 96.5% （若者：96.7% 一般：95.8%）

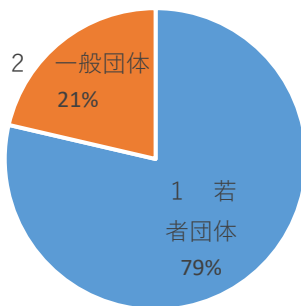
○部屋維持満足度：満足 97.4% （若者：98.9% 一般：91.7%）

○職員接遇満足度：満足 98.3% （若者：98.9% 一般：95.8%）

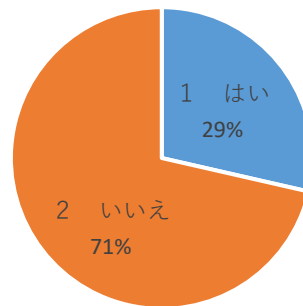
○総合満足度：満足 100.0% （若者：100.0% 一般：100.0%）

※いづれも、満足：「満足」「やや満足」の合計

Q.ご利用区分をお知らせください

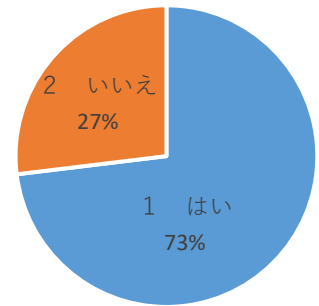


Q.他のYouth+は利用していますか



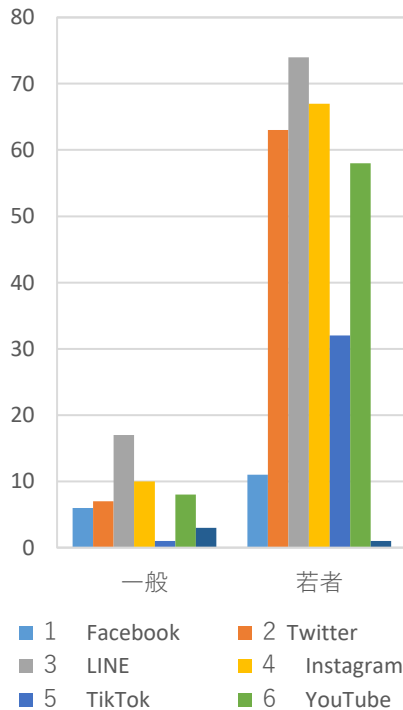
一般

Q.他のYouth+は利用していますか

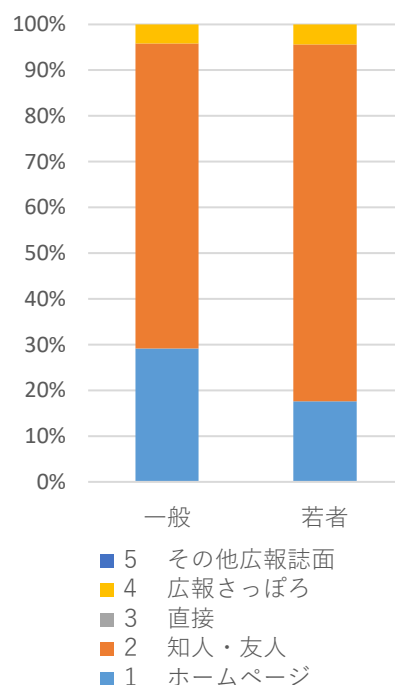


若者

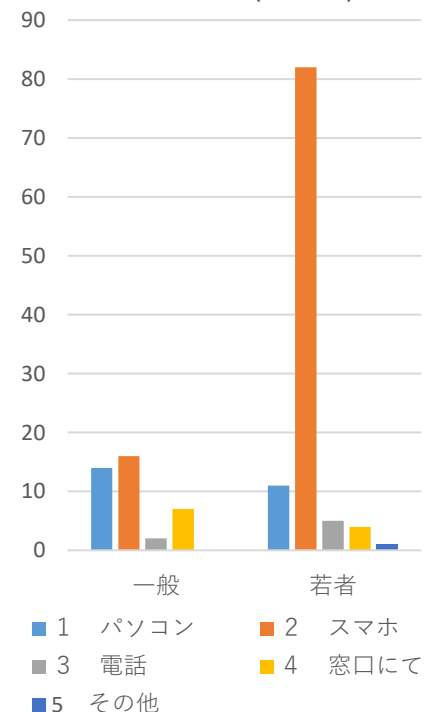
Q.使用しているSNSを教えてください(複数回答)



Q.初めて当施設を知ったきっかけは何でしょうか



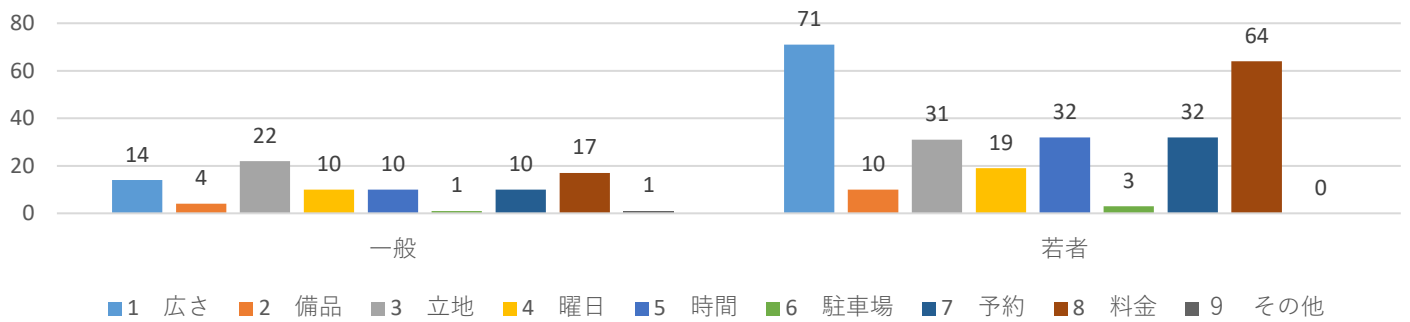
Q.空き状況をどのように確認していますか(複数回答)



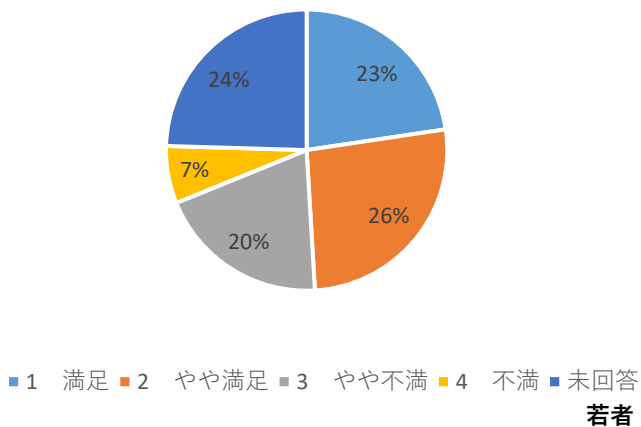


令和5年度 Youth+センター 窓口アンケート集計グラフ

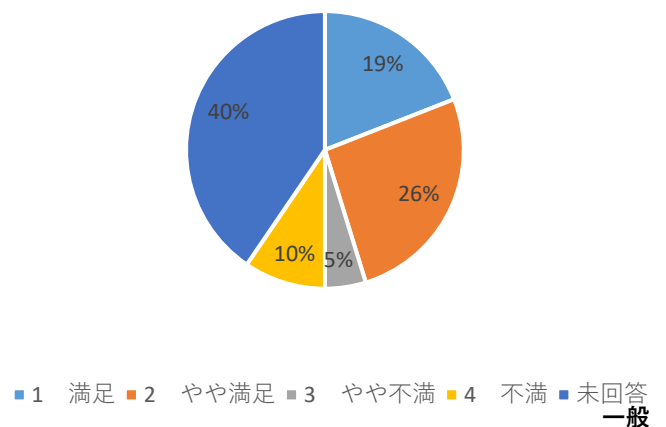
Q.施設を選ぶときに重視すること



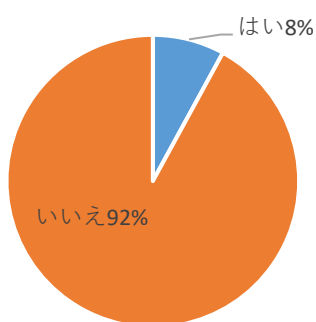
Q 施設を利用する頻度



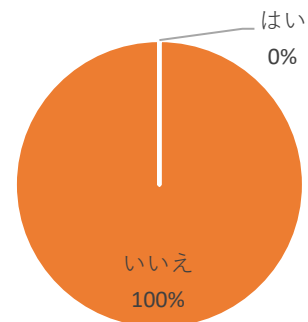
Q.施設を利用する頻度



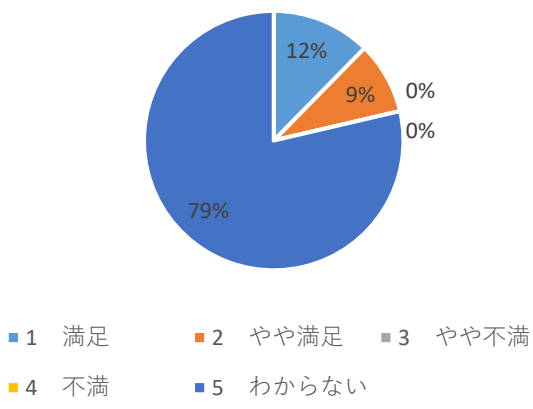
Q.イベントに参加したことがある



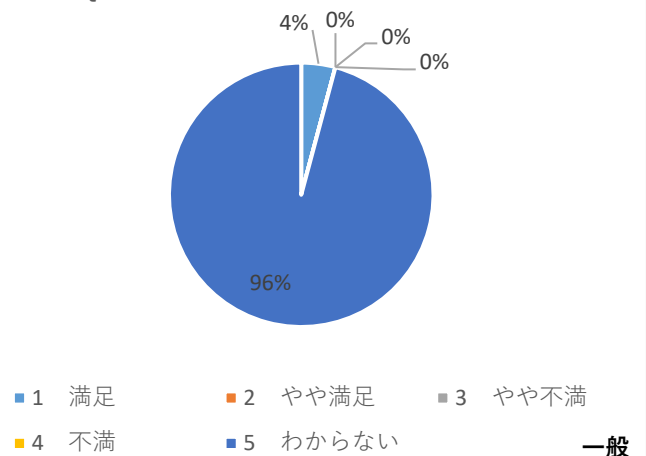
Q イベントに参加したことがある



Q.イベントについてどう思いますか？



Q.イベントについてどう思いますか？





【1】備品について <ご意見>

キレイな鑑が良いです。

【1】備品について <回答>

備品の汚れ等、不備があり気になる場合は職員までお申し付けください。

【2】貸室予約・支払について<ご意見>

- ①予約の決済をオンラインでできるようにして欲しい。
- ②キャッシュレス決済できたらいいです。
- ③カードやQRで支払いができるのもっと便利
- ④支払いが3日以内ですが、それが間に合わないこともあるので当日あるいは電子マネーなどの対応をしていただきたい。

【2】貸室予約・支払について<回答>

①～④

貸室の受付に関しましては、札幌市若者支援施設条例・施行規則に則り運営しております。
ご理解いただけると幸いです。

【3】その他 <ご意見>

- ①いつもありがとうございます。
- ②いつもありがとうございます。これからも利用させてもらいます。
- ③丁寧かつ親切なご対応で常に笑顔で接して下さりありがとうございます。
- ④非常に廉価で借りられるので助かっています。ありがとうございます。
- ⑤「会場が用意できればそれだけで助かる」という私にとってここは本当に良い場所です。
扇風機もストーブも貸してくれるし、となりの声もほほえましくセンター内の手作り感に
スタッフの気遣いも感じられました。あたたかく居心地良い場所です。

【3】その他 <回答>

①～⑤

いつもご利用いただきありがとうございます。引き続きよろしくお願いいたします。
これからも丁寧な対応を職員一同心掛けてまいります。



令和5年度 Youth+アカシア 窓口アンケート集計グラフ

・期間中の利用団体数：134団体 ・うちアンケート回収数：122団体 ・回収率：91.0%

○システム満足度：満足 91.8% （若者：91.7% 一般：92.3%）

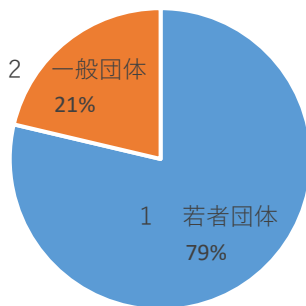
○部屋維持満足度：満足 94.3% （若者：94.8% 一般：92.3%）

○職員接遇満足度：満足 93.4% （若者：93.8% 一般：92.3%）

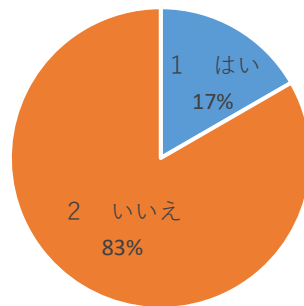
○総合満足度：満足 95.1% （若者：94.8% 一般：96.2%）

※いづれも、満足：「満足」「やや満足」の合計

Q.ご利用区分をお知らせください

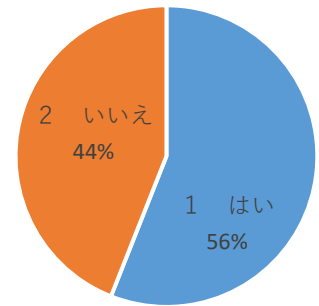


Q.他のYouth+は利用していますか



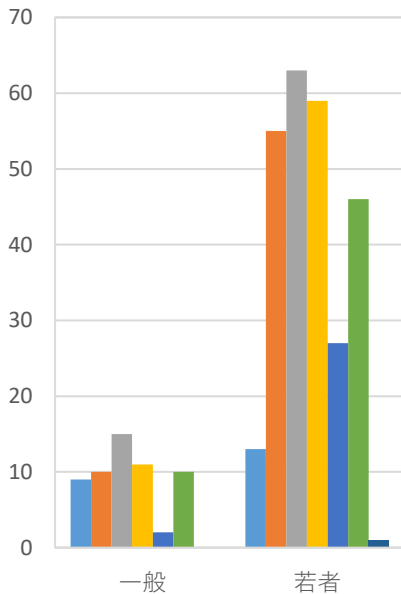
一般

Q.他のYouth+は利用していますか



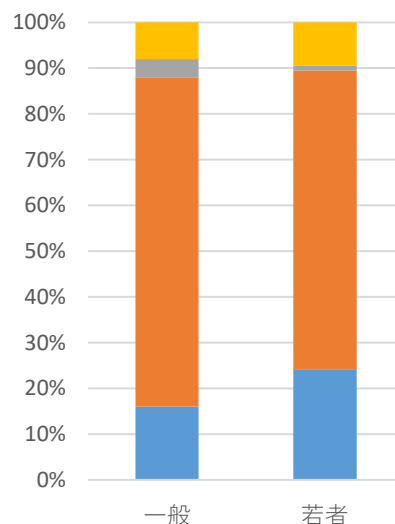
若者

Q.使用しているSNSを
教えてください(複数回答)



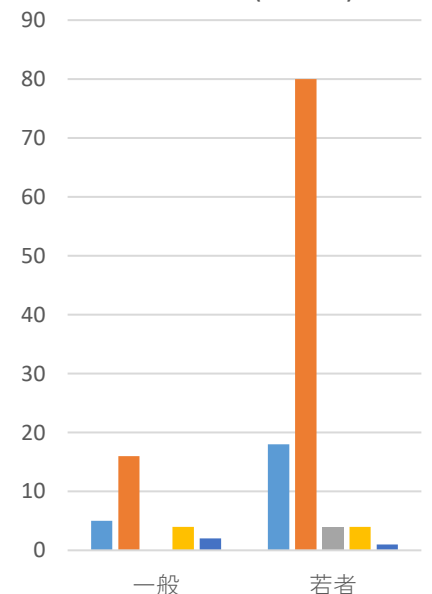
■ 1 Facebook
■ 2 Twitter
■ 3 LINE
■ 4 Instagram
■ 5 TikTok
■ 6 YouTube

Q.初めて当施設を知った
きっかけは何でしょうか



■ 5 その他広報誌面
■ 4 広報さっぽろ
■ 3 直接
■ 2 知人・友人
■ 1 ホームページ

Q.空き状況をどのように
確認していますか(複数回答)

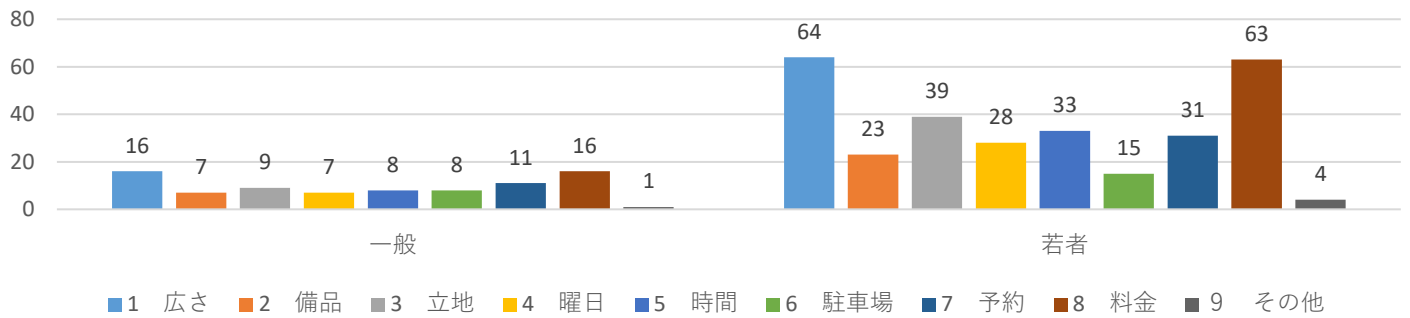


■ 1 パソコン
■ 2 スマホ
■ 3 電話
■ 4 窓口にて
■ 5 その他

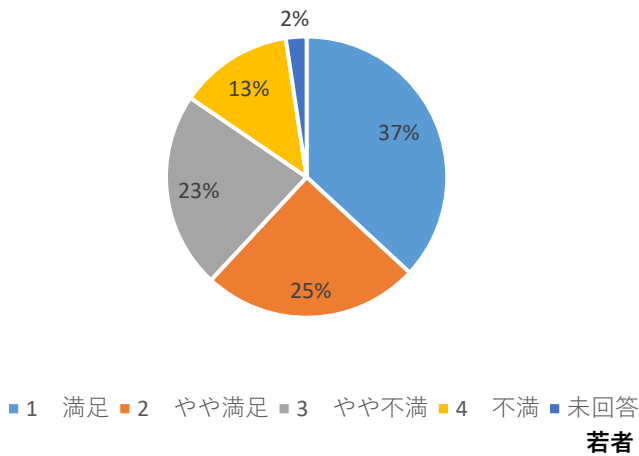


令和5年度 Youth+アカシア 窓口アンケート集計グラフ

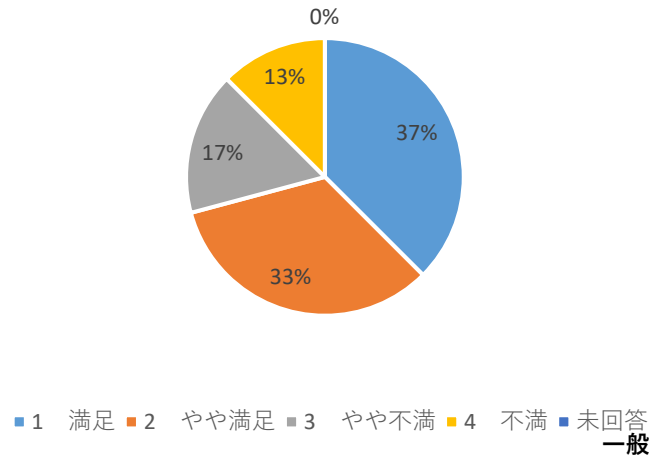
Q.施設を選ぶときに重視すること



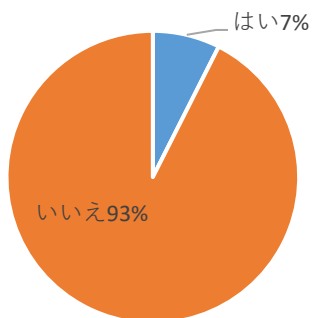
Q 施設を利用する頻度



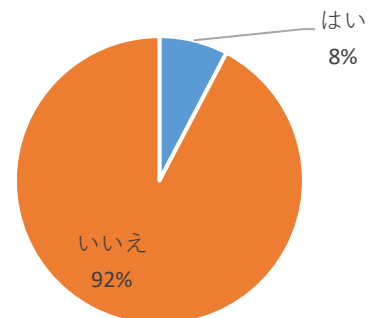
Q.施設を利用する頻度



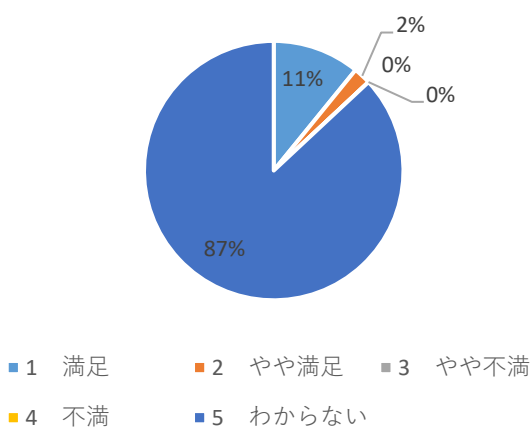
Q.イベントに参加したことがある



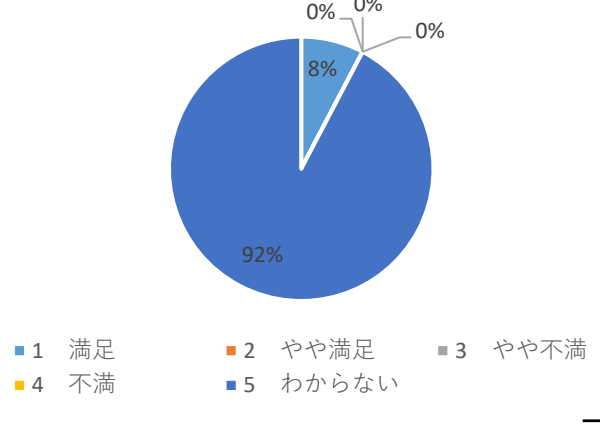
Q イベントに参加したことがある



Q.イベントについてどう思いますか？



Q.イベントについてどう思いますか？





【1】支払について <ご意見>

- ①予約の支払いをクレジット、または、QRコード決済でできるようにしてほしい。
- ②支払の方法や仕方を変えてほしい。3日以内や、1週間以内に行くことが難しいこともある。

【1】支払について <回答>

- ①～②入金方法に関しましてご不便をおかけしており申し訳ございません。利用者のみなさまの利便性を考え今後の検討材料とさせていただきたいと思います。

【2】予約について <ご意見>

- ①申し込んだ後の手続きに時間を要するのはシステムの問題なのでしょうか？
- ②予約が満室なのに、空いている部屋があり、特に体育館はなかなか取れないのもったいないと思います。キャンセルになった所は公開して、新たに取れる様にした方が無駄がない。その際、施設側が会場費を2重に受け取っても良いと思います。(手間がかかっているの)

【2】予約について <回答>

- ①申請書のプリントアウト、入金等において、お時間頂戴してしまい申し訳ございません。みなさまのご意見を頂戴しながらより良いシステムの構築を進めていきたいと思います。
- ②キャンセル後のお部屋の取り扱いに関して貴重なご意見ありがとうございます。現状では札幌市条例に基づき運営を行っています。すぐの改修は難しい状況ですが、今後の検討材料とさせていただきます。

【3】施設・設備等について <ご意見>

- ①冬、雪で車がとめづらい事があった。
- ②他の部屋からの音漏れ、自分の部屋からの音漏れを気にしてしまいます。

【3】施設・設備等について <回答>

- ①アカシアの駐車スペースの狭さでご不便をおかけしてしまい申し訳ございません。駐車スペースの改善等で、利用しやすい状況を検討していきたいと思います。
- ②他室のあまりにも大きな音等については、いつでも職員にお声を寄せていただければ、都度ご対応させていただきたいと思います。

【4】その他 <ご意見>

- ①親しみやすく、笑顔が素晴らしかった。気さくに対応して下さって、とても利用しやすいです。
- ②貸し切りでスポーツができる場所がなかったので助かってます。
- ③接客業ではないことは理解しているが、感じがよくない方がいた

【4】その他 <回答>

- ①ありがとうございます。皆様のお声を励みにより良い施設運営を行ってまいります。
- ②ご活用いただきありがとうございます。
- ③職員の接遇で不快な思いをさせてしまいまして申し訳ございません。全職員が利用者のみなさまから喜ばれる対応ができるよう、接遇スキルの向上を行っていききたいと思います。



令和5年度 Youth+ポプラ 窓口アンケート集計グラフ

・期間中の利用団体数：38団体 ・うちアンケート回収数：38団体 ・回収率：100.0%

○システム満足度：満足 92.1% （若者：91.3% 一般：93.3% ）

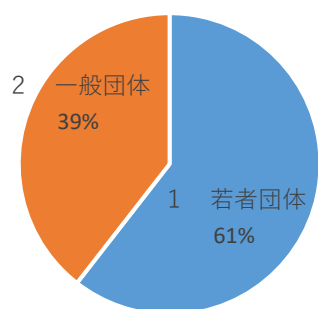
○部屋維持満足度：満足 100.0% （若者：100.0% 一般：100.0% ）

○職員接遇満足度：満足 97.4% （若者：100.0% 一般：93.3% ）

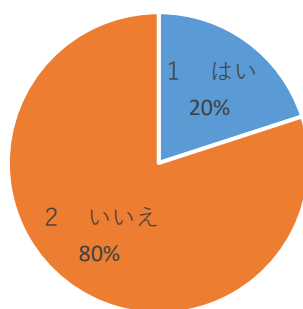
○総合満足度：満足 100.0% （若者：100.0% 一般：100.0% ）

※いづれも、満足：「満足」「やや満足」の合計

Q.ご利用区分をお知らせください

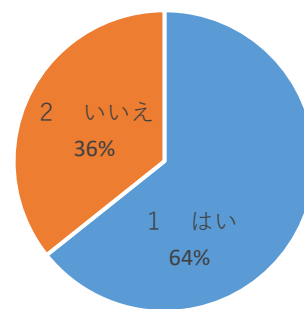


Q.他のYouth+は利用していますか



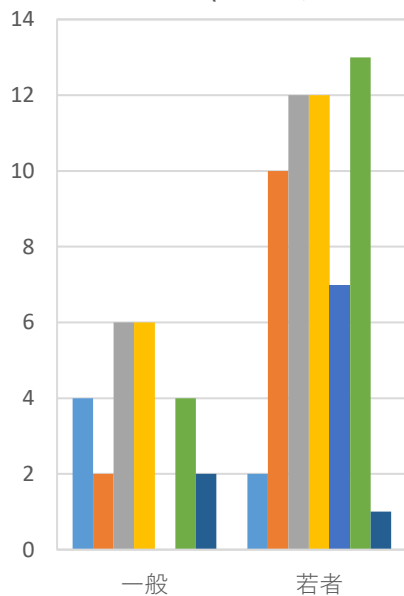
一般

Q.他のYouth+は利用していますか



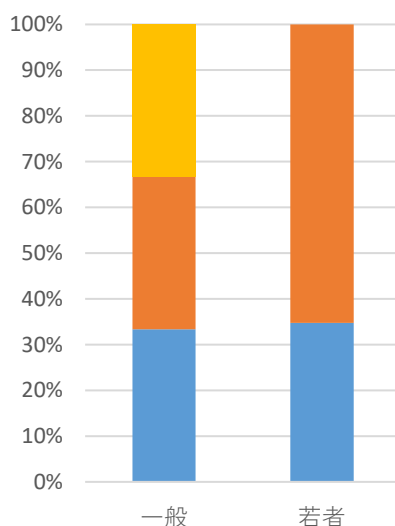
若者

Q.使用しているSNSを
教えて下さい(複数回答)



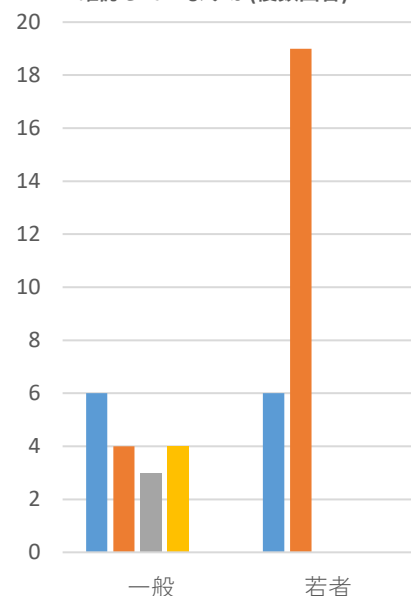
1 Facebook
2 Twitter
3 LINE
4 Instagram
5 TikTok
6 YouTube

Q.初めて当施設を知った
きっかけは何でしょうか



1 ホームページ
2 知人・友人
3 直接
4 広報さっぽろ
5 その他広報誌面

Q.空き状況をどのように
確認していますか(複数回答)

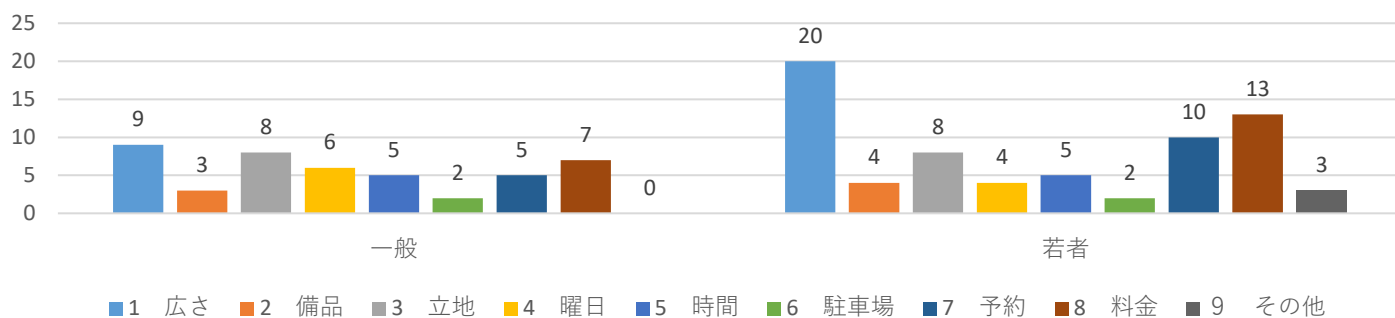


1 パソコン
2 スマホ
3 電話
4 窓口にて
5 その他

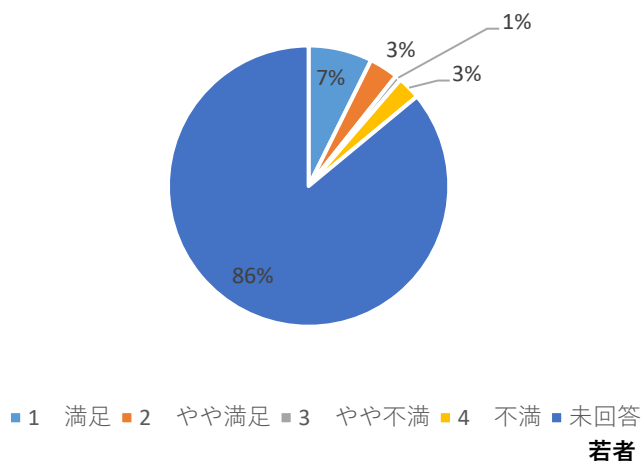


令和5年度 Youth+ポプラ 窓口アンケート集計グラフ

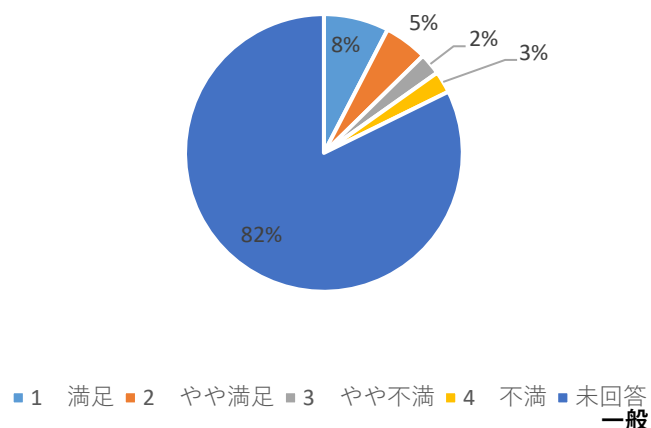
Q.施設を選ぶときに重視すること



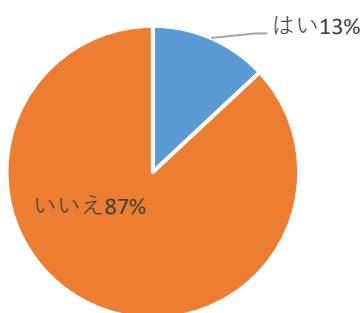
Q 施設を利用する頻度



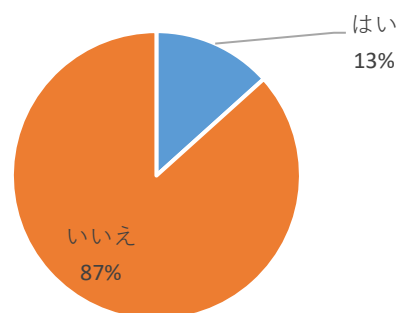
Q.施設を利用する頻度



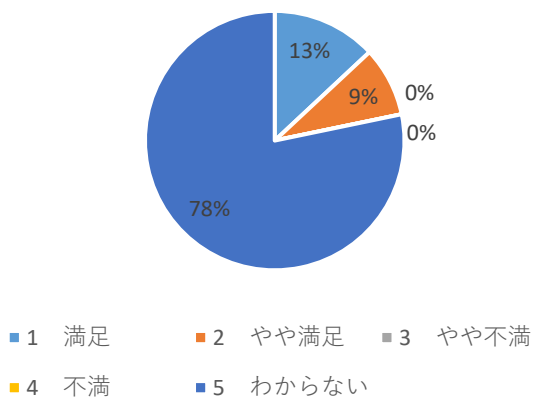
Q.イベントに参加したことがある



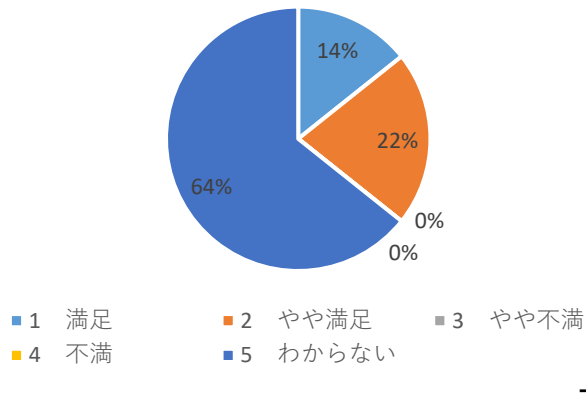
Q イベントに参加したことがある



Q.イベントについてどう思いますか？



Q.イベントについてどう思いますか？





令和5年度 Youth+ポプラ（ポプラ若者活動センター）窓口アンケート自由記述

【1】予約について <ご意見>

- ①現金以外の支払い方法がほしい
- ②支払いをオンラインでも可にさせていただくか当日でも可にして欲しい。せめて、振り込みかPayPay可にして欲しい

【1】予約について <回答>

①②貸室の受付に関しましては、札幌市若者支援施設条例・施行規則に則り運営しております。ご理解いただけると幸いです。また、ネットでの決済、キャッシュレス決済等につきましては、利便性向上に向けて検討してまいります。

【2】設備について <ご意見>

- ①音響機器（ラジカセ等）借りる際に料金がかかるのが不満です。区民センター等は無料です

【2】設備について <回答>

- ①備品の使用料金につきましては、札幌市若者支援施設条例・施行規則に則り運営しております。ご理解いただけると幸いです。



令和5年度 Youth+豊平 窓口アンケート集計グラフ

・期間中の利用団体数：161団体 ・うちアンケート回収数：138団体 ・回収率：85.7%

○システム満足度：満足 93.5% （若者：93.9% 一般：92.5% ）

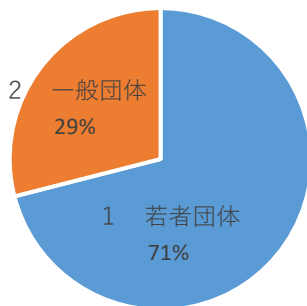
○部屋維持満足度：満足 96.4% （若者：95.9% 一般：97.5% ）

○職員接遇満足度：満足 100.0% （若者：100.0% 一般：100.0% ）

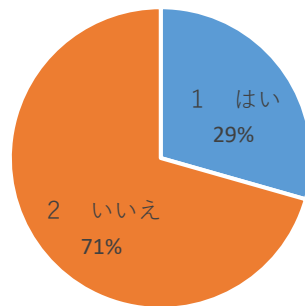
○総合満足度：満足 99.3% （若者：99.0% 一般：100.0% ）

※いづれも、満足：「満足」「やや満足」の合計

Q.ご利用区分をお知らせください

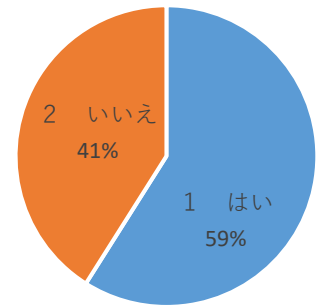


Q.他のYouth+は利用していますか



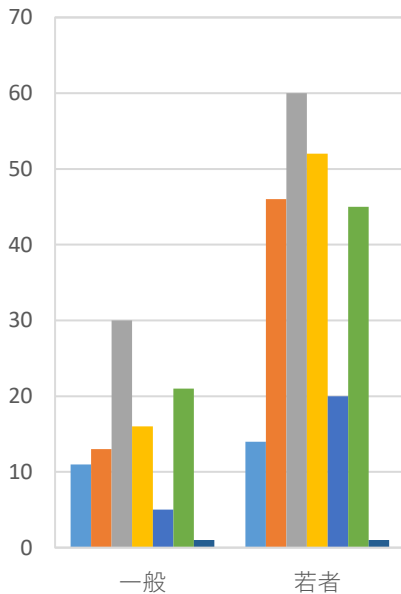
一般

Q.他のYouth+は利用していますか

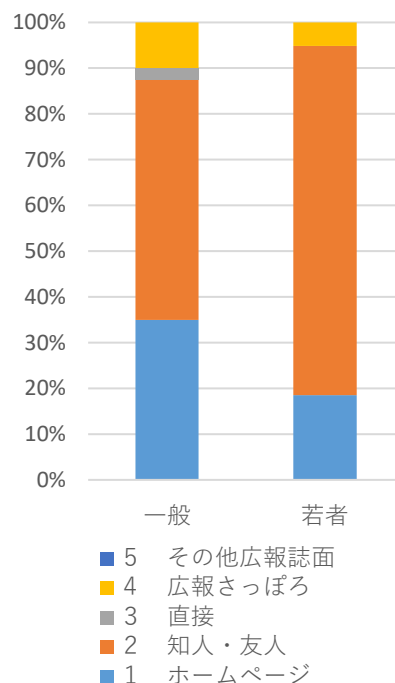


若者

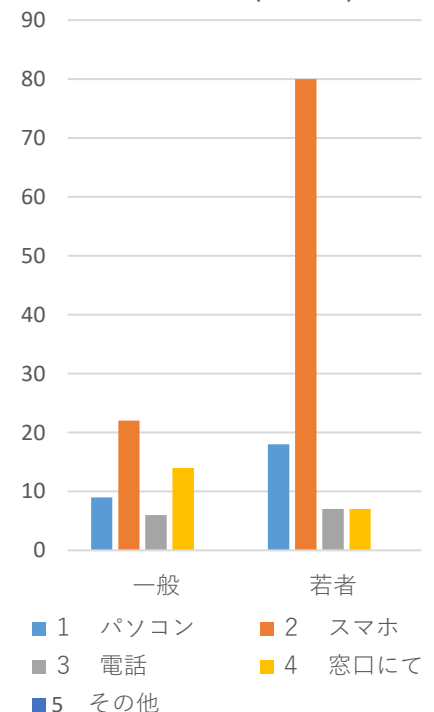
Q.使用しているSNSを教えてください(複数回答)



Q.初めて当施設を知ったきっかけは何でしょうか



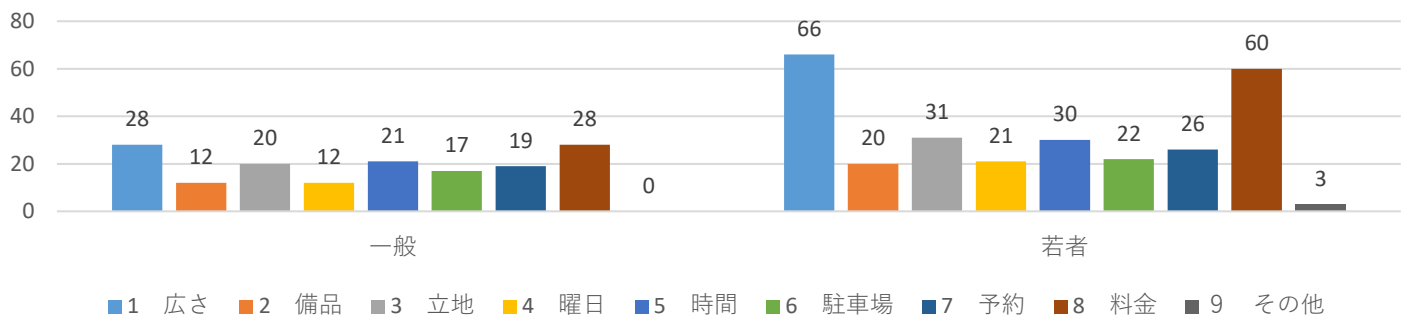
Q.空き状況をどのように確認していますか(複数回答)



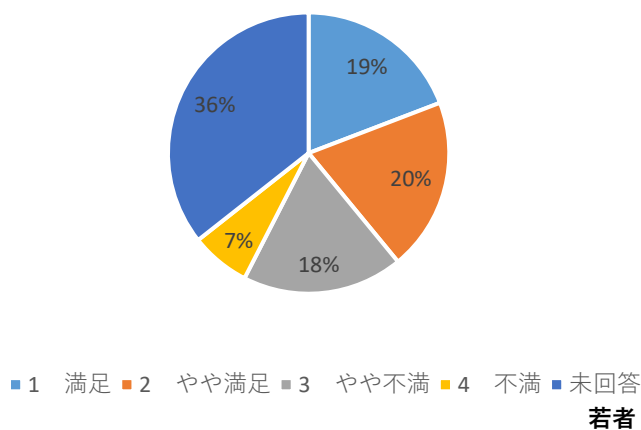


令和5年度 Youth+豊平 窓口アンケート集計グラフ

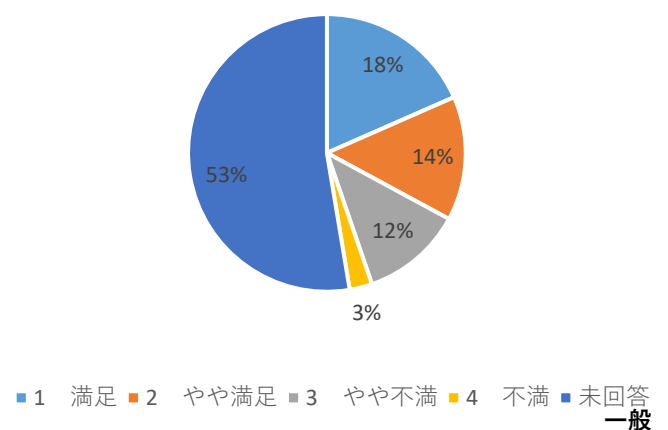
Q.施設を選ぶときに重視すること



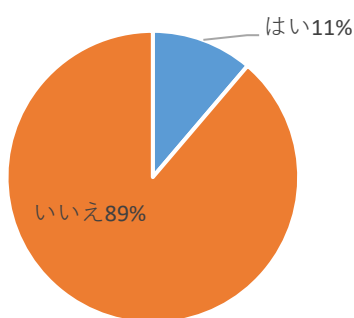
Q 施設を利用する頻度



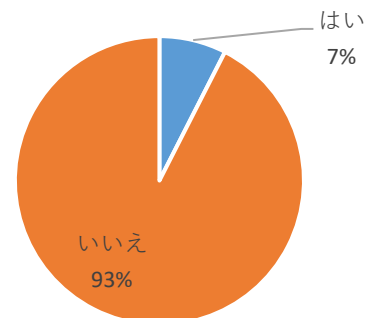
Q.施設を利用する頻度



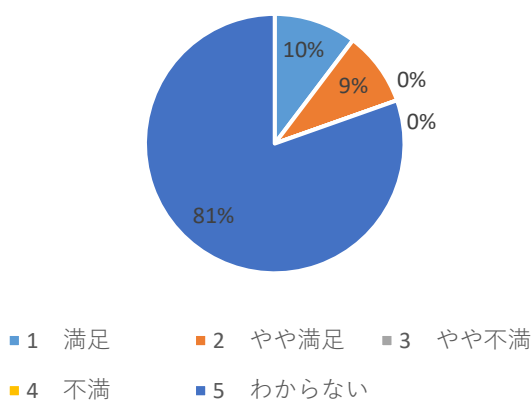
Q.イベントに参加したことがある



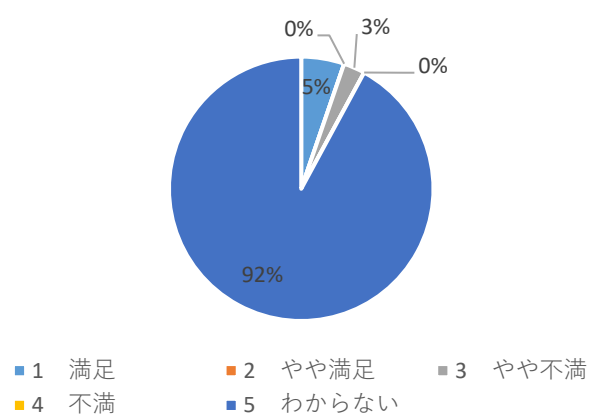
Q イベントに参加したことがある



Q.イベントについてどう思いますか？



Q.イベントについてどう思いますか？





【1】予約・支払について＜ご意見＞

- ①キャンセルできるシステムがあるともっと有りがたいと思っています。
- ②仮予約の期間がもう少し長いとありがたいです。(3回予約しなおしました)
- ③支払方法を増やして頂けると助かります。少し料金が高くなっても良いので、スマホ決済など検討していただきたい。

【1】予約に関して ＜回答＞

- ①②貸室の受付に関しましては、札幌市若者支援施設条例・施行規則に則り運営しております。ご理解いただけると幸いです。
- ③入金方法に関しましてご不便をおかけしており申し訳ございません。利用者みなさまの利便性を考え今後の検討材料とさせていただきたいと思います。

【2】施設、設備について ＜ご意見＞

- ①体育室に冷房がほしいです。
- ②バトミントンネットや得点版の補修
- ③隣の音漏れが気になるので、いつか防音になったら嬉しいです。
- ④駐車場が混み合うのと、お迎えだけの車は駐車場に止めないように注意喚起してほしいです。
- ⑤音楽室のせっかくのピアノがかなり調律が悪くもったいないため、一度調律していただけたらうれしいです。

【2】施設、設備について ＜回答＞

- ①冷房につきましてご意見ありがとうございます。スポットエアコンの設置及び扇風機の設置を進めさせていただきました。今後も安全にご利用いただけるよう引き続き努めてまいります。
- ②早速対応させていただきます。今後も不備等ありましたらお声がけをお願いいたします。
- ③ご意見ありがとうございます。他室のあまりにも大きな音等については、いつでも職員にお声を寄せていただければ、都度ご対応させていただきたいと思います。
- ④駐車場につきましてご意見ありがとうございます。台数が限られているため、貸室の入れ替え時には職員よりご案内をしたり駐車場の誘導等させていただいております。
- ⑤ピアノの調律につきまして、定期的に調律を行っておりますが、引き続き皆さまに安心してご利用いただけるよう努めてまいります。

【3】その他 ＜ご意見＞

もっと早くに知りたかった施設です。不安な顔つきで入ってくる初見の子供たちが帰りには笑顔になっているのは、施設の方々の暖かさあってかと思います。結局、ここが1番利用者にとって大切な気がするので、本当にいい場所です！

【3】その他 ＜回答＞

いつもご利用いただきありがとうございます。引き続きよろしく願いいたします。
これからも丁寧な対応を職員一同心掛けてまいります。



令和5年度 Youth+宮の沢 窓口アンケート集計グラフ

・期間中の利用団体数：132団体 ・うちアンケート回収数：102団体 ・回収率：77.3%

○システム満足度：満足 90.1% （若者：92.6% 一般：87.2% ）

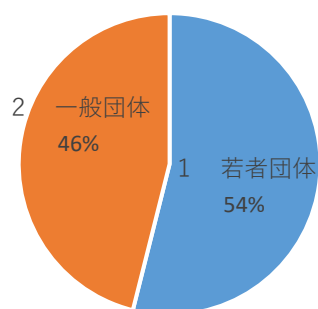
○部屋維持満足度：満足 99.0% （若者：100.0% 一般：97.8% ）

○職員接遇満足度：満足 100.0% （若者：100.0% 一般：100.0% ）

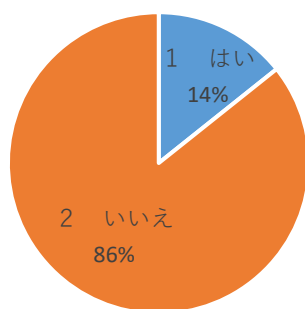
○総合満足度：満足 100.0% （若者：100.0% 一般：100.0% ）

※いづれも、満足：「満足」「やや満足」の合計

Q.ご利用区分をお知らせください

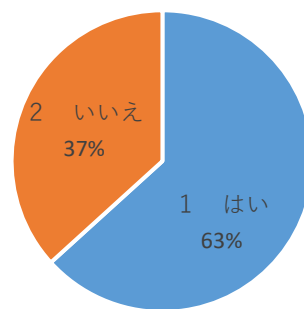


Q.他のYouth+は利用していますか



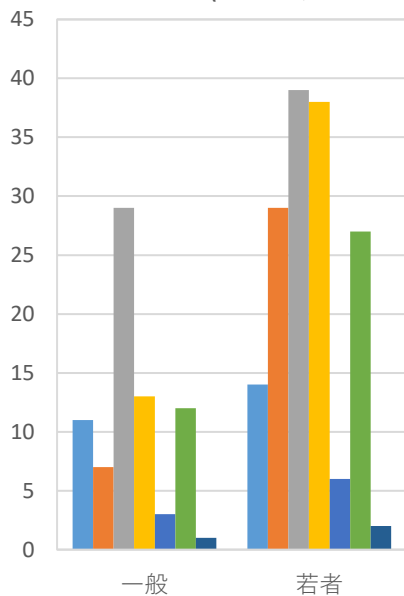
一般

Q.他のYouth+は利用していますか



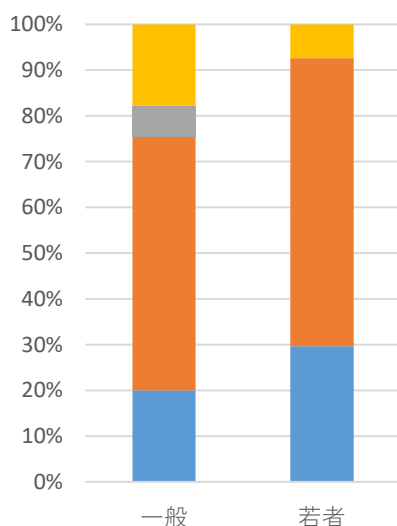
若者

Q.使用しているSNSを教えてください(複数回答)



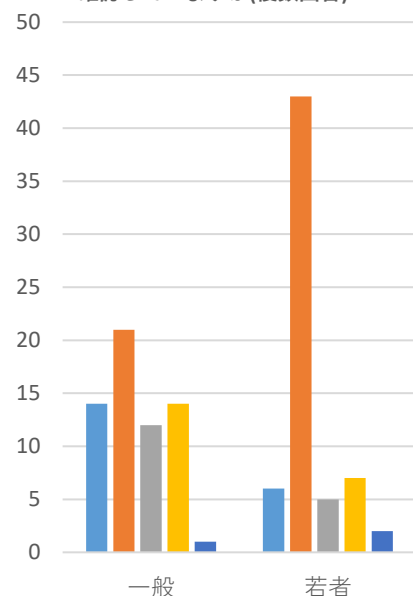
1 Facebook 2 Twitter
3 LINE 4 Instagram
5 TikTok 6 YouTube

Q.初めて当施設を知ったきっかけは何でしょうか



5 その他広報誌面
4 広報さっぽろ
3 直接
2 知人・友人
1 ホームページ

Q.空き状況をどのように確認していますか(複数回答)

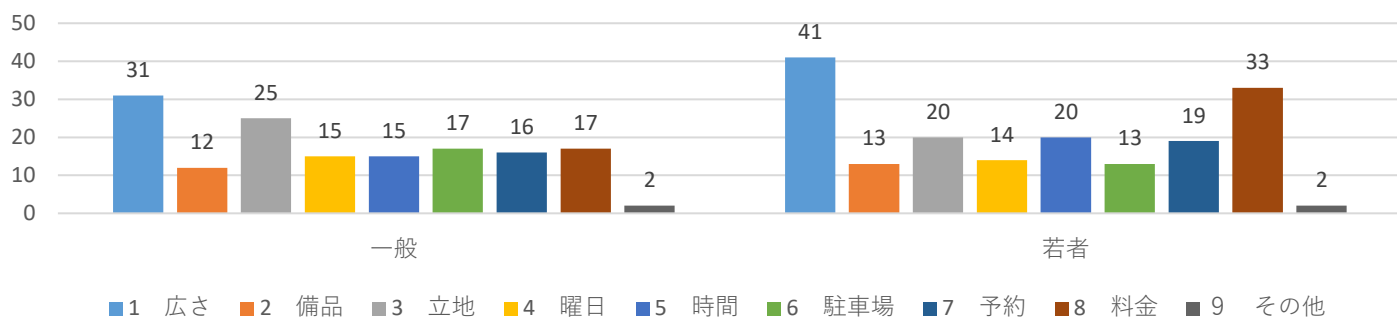


1 パソコン 2 スマホ
3 電話 4 窓口にて
5 その他

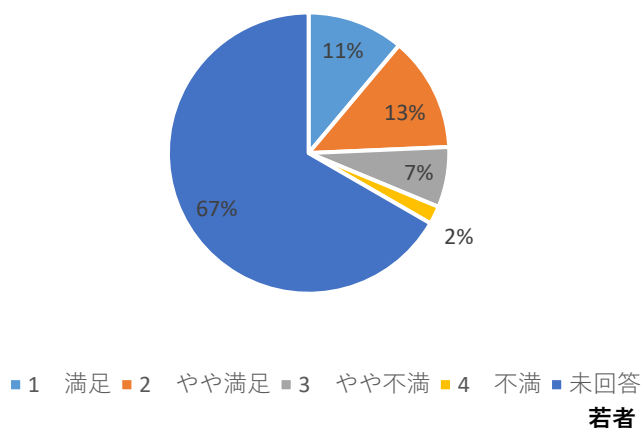


令和5年度 Youth+宮の沢 窓口アンケート集計グラフ

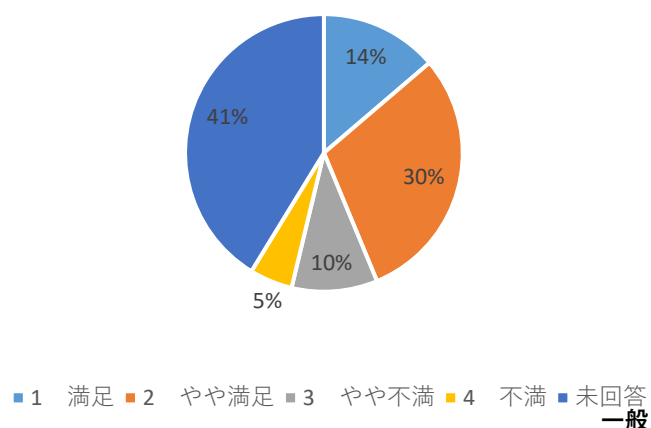
Q.施設を選ぶときに重視すること



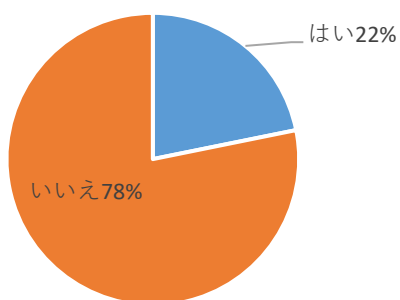
Q 施設を利用する頻度



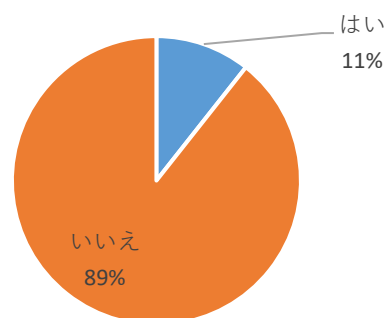
Q.施設を利用する頻度



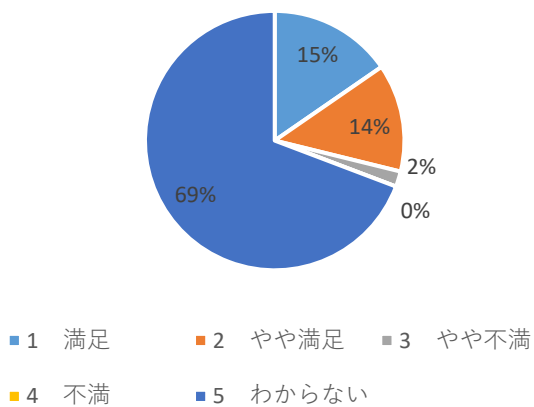
Q.イベントに参加したことがある



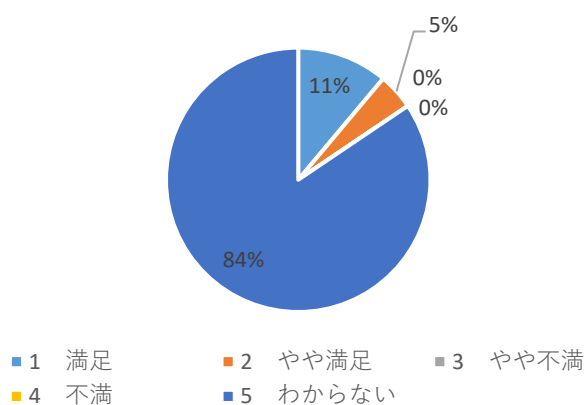
Q イベントに参加したことがある



Q.イベントについてどう思いますか？



Q.イベントについてどう思いますか？





【1】支払いについて <ご意見>

- ①支払い方法が増えて欲しい。
- ②キャンセル制度があるといいです。
- ③利用者履歴に基づいて、利用料金の多少の割引、割安の回数券を発行して頂きたい。主旨は、利用回数の増加や施設稼働率UPのため、利用回数の多い人に対する優待度を高めるてほしい。
- ④予約して4日以内に直接支払いしなければならないところを変えてほしい。
- ⑤インターネット予約をしたら、そのままオンライン決済出来たらもっと嬉しいです。
- ⑥都合により使用不可となった場合は、利用料金を全額返金してほしい。
- ⑦一斉受付の時間がかかりすぎの様に思います。受付手順分担など工夫の余地があるのではないのでしょうか。

【1】支払いについて <回答>

- ①今後の施設運営の参考・検討事項とさせていただきます。ご迷惑をおかけいたしますが、引き続きどうぞよろしくお願いいたします。
- ②～⑥
貸室の支払いに関しましては、札幌市若者支援施設条例・施行規則に則り運営しております。ご理解いただけると幸いです。なお、今後の検討課題にさせていただきます。
- ⑦この度は大変ご迷惑をおかけいたしました。今後は受付手順の見直しを行う等にて、円滑な受付・支払いができるよう職員一同努めて参ります。

【2】施設について <ご意見>

- ①音楽スタジオ内は、飲食禁止ですが利用者の健康保持の為に水やお茶（糖分を含まない物）に限って飲むことを認めてもらいたいと思います。
- ②椅子が少ない。場所確保難しい。
- ③テスト前などでロビーが満席で座れない子を見かけます。活動室などが空きがあれば、手間はかかるとは思いますが、家庭の事情がある子もいると思うのでご検討ください。
- ④バレーボール用ネットの引っ掛ける紐がちぎれ、ピンと張れないものがあります。

【2】施設について <回答>

- ①音楽スタジオでは、水分補給のための飲料を摂取することは可能となっております。ご案内が不足しており大変ご迷惑をおかけいたしました。
- ②ご意見ありがとうございます。皆さまのご意見を伺ったうえで、ロビーのレイアウト変更を行い、気持ちよくご利用できるよう努めて参ります。
- ③テスト期間等、若者がロビー利用に集中する時期については、貸室の使用状況などから活動室を開放する場合もございますので、今後も柔軟に対応させていただきます。
- ④備品に不備があることを確認いたしましたので、修繕対応しております。この度は大変ご迷惑をおかけいたしました。

【3】その他 <ご意見>

- ①いつもありがとうございます
- ②ありがとうございました。いつも助かっております。

【3】その他 <回答>

- ①② いつもありがとうございます。今後とも皆さまが気持ちよく利用できる施設運営を心がけて参ります。

札幌市若者支援施設 指定管理業務収支報告書(総括表)

法人・団体名：公益財団法人さっぽろ青少年女性活動協会

1. 収入

(単位：千円)

項 目	予算額(A)	決算額(B)	差異(B-A)	備考
指定管理費	178,094	179,067	973	
利用料金収入	28,788	25,795	-2,993	
その他の収入	647	2,141	1,494	
自主事業収入	46,997	47,080	83	
合 計 (C)	254,526	254,083	-443	

2. 支出

(単位：千円)

項 目	予算額(A)	決算額(B)	差異(B-A)	備考
人件費	190,798	177,390	-13,408	※指定管理・自主業務別シートに記載
旅費・交通費	1,006	1,185	179	
通信運搬費	2,022	1,884	-138	
減価償却費	3,590	3,700	110	
消耗品費	3,879	3,080	-799	
修繕費	250	975	725	
印刷製本費	100	0	-100	
燃料費	4,477	3,892	-585	
光熱水費	8,308	7,150	-1,158	
賃借料	2,101	2,786	685	
入場料	0	0	0	
保険料	400	354	-46	
諸謝金	3,204	3,619	415	
租税公課	18,012	17,663	-349	
負担金	116	378	262	
委託費	9,164	12,307	3,143	
役務費	4,161	5,052	891	
支払手数料	100	4	-96	
備品費	560	274	-286	
広告宣伝費	956	928	-28	
会議費	26	17	-9	
行政財産目的外使用	50	50	0	
雑費	46	46	0	
その他の支出	7,053	7,181	128	
合 計(D)	260,379	249,915	-10,464	

3. 収支差額

(単位：千円)

項 目	予算額(A)	決算額(B)
収支差額(C-D)	-5,853	4,168

(1)収支報告書(総括表：施設別)

法人・団体名：公益財団法人さっぽろ青少年女性活動協会

1．収入 (単位：千円)

項 目	決算						備考
	総合	アカシア	ポプラ	豊平	宮の沢	決算額(B)	
指定管理費	179,067	0	0	0	0	179,067	
利用料金収入	3,893	5,211	1,267	5,423	10,001	25,795	貸室利用料金
その他の収入	2,049	12	2	12	66	2,141	参加料・受講料、受取利息等
自主事業	42,776	256	3,518	296	234	47,080	企画事業収益、受託事業、飲料販売等
合 計 (C)	227,785	5,479	4,787	5,731	10,301	254,083	

2．支出 (単位：千円)

項 目	決算						備考
	総合	アカシア	ポプラ	豊平	宮の沢	決算額(B)	
人件費	174,088	0	3,302	0	0	177,390	人件費は総合に計上
旅費・交通費	761	150	38	51	185	1,185	外勤旅費・出張旅費
通信運搬費	1,287	140	160	141	156	1,884	電話、携帯電話、切手
減価償却費	3,700	0	0	0	0	3,700	受付システム等ソフトウェア等（総合に計上）
消耗品費	1,520	543	348	409	260	3,080	管理用品、衛生用品、事務用品等
修繕費	385	263	48	148	131	975	軽微な修繕
印刷製本費	0	0	0	0	0	0	
燃料費	1,434	0	1,286	1,172	0	3,892	冷暖房用燃料
光熱水費	933	2,847	913	2,420	37	7,150	電気使用料、上下水道、ガス使用料
入場料	0	0	0	0	0	0	
賃借料	1,294	515	311	311	355	2,786	複写機等賃借料
保険料	354	0	0	0	0	354	施設賠償責任保険、レクリエーション保険ほか
諸謝金	3,566	13	0	0	40	3,619	清掃ジョブトレ謝金及び各種講座講師謝礼
租税公課	17,661	0	2	0	0	17,663	契約書印紙税、消費税等（比率按分）
負担金	361	7	0	7	3	378	講習・研修参加料
委託費	5,767	3,057	191	3,112	180	12,307	機械警備業務、清掃業務等
役務費	4,322	274	157	75	224	5,052	HP保守、各種設備点検業務等
支払手数料	4	0	0	0	0	4	総合に一括計上
備品費	73	155	0	46	0	274	破損備品の更新等
広告宣伝費	862	0	0	66	0	928	施設リーフレット印刷
会議費	14	0	0	3	0	17	運営協議会等お茶
行政財産目的外使用	0	0	0	16	34	50	自動販売機設置料（宮の沢、豊平）
雑費	46	0	0	0	0	46	来館者閲覧用新聞・雑誌
その他（法人事業費等）	7,181	0	0	0	0	7,181	法人管理経費及び法人税（比率按分）
合 計(D)	225,613	7,964	6,756	7,977	1,605	249,915	

3．収支差額 (単位：千円)

項 目	決算					
	総合	アカシア	ポプラ	豊平	宮の沢	決算額(B)
収支差額(C-D)	2,172	-2,485	-1,969	-2,246	8,696	4,168

(2)収支報告書(指定管理事業：施設別)

法人・団体名：公益財団法人さっぽろ青少年女性活動協会

1. 収入 (単位：千円)

項 目	決算						備考
	総合	アカシア	ポプラ	豊平	宮の沢	決算額(B)	
指定管理費	179,067	0	0	0	0	179,067	
利用料金収入	3,893	5,211	1,267	5,423	10,001	25,795	貸室利用料金
その他の収入	2,049	12	2	12	66	2,141	参加料・受講料、受取手数料等
自主事業	0	0	0	0	0	0	
合 計 (C)	185,009	5,223	1,269	5,435	10,067	207,003	

2. 支出 (単位：千円)

項 目	決算						備考
	総合	アカシア	ポプラ	豊平	宮の沢	決算額(B)	
人件費	137,806	0	0	0	0	137,806	人件費は総合に計上
旅費・交通費	639	150	38	51	185	1,063	外勤旅費・出張旅費
通信運搬費	898	140	160	141	156	1,495	電話、携帯電話、切手
減価償却費	3,700	0	0	0	0	3,700	受付システム等ソフトウェア等（総合に計上）
消耗品費	1,067	303	277	409	260	2,316	管理用品、衛生用品、事務用品等
修繕費	385	263	48	148	131	975	軽微な修繕
印刷製本費						0	
燃料費	1,434		1,286	1,172		3,892	冷暖房用燃料
光熱水費	933	2,847	913	2,395	0	7,088	電気使用料、上下水道、ガス使用料
入場料						0	
賃借料	1,039	515	311	311	355	2,531	印刷機、複写機等賃借料
保険料	354					354	施設賠償責任保険、レクリエーション保険ほか
諸謝金	1,960	13	0	0	40	2,013	清掃ジョブトレ謝金及び各種講座講師謝礼
租税公課	17,661	0	0	0	0	17,661	契約書印紙税、消費税等（比率按分）
負担金	361	7		7	3	378	講習・研修参加料
委託費	5,767	3,057	191	3,112	180	12,307	機械警備業務、清掃業務等
役務費	4,319	274	25	75	224	4,917	有料ゴミ袋、各種点検業務等
支払手数料	4	0	0	0	0	4	総合に一括計上
備品費	73	155		46		274	破損備品の更新等
広告宣伝費	290	0	0	66	0	356	Web求人広告、HPウェブアクセシビリティ対応他
会議費	14			3		17	運営協議会等お茶
行政財産目的外使用料						0	
雑費	0					0	
その他（法人事業費等）	7,181					7,181	法人管理経費及び法人税（比率按分）
合 計(D)	185,885	7,724	3,249	7,936	1,534	206,328	

3. 収支差額 (単位：千円)

項 目	決算					
	総合	アカシア	ポプラ	豊平	宮の沢	決算額(B)
収支差額(C-D)	-876	-2,501	-1,980	-2,501	8,533	675

(3)収支報告書(自主事業：施設別)

法人・団体名：公益財団法人さっぽろ青少年女性活動協会

1. 収入 (単位：千円)

項 目	決算						備考
	総合	アカシア	ポプラ	豊平	宮の沢	決算額(B)	
1) 飲料販売	220	256	82	17	0	575	飲料水販売
2)自動販売機設置	0	0	0	279	234	513	電気料・設置料・受取手数料含む
3)印刷事業	0	0	0	0	0	0	
4)サポステ事業	38,612	0	0	0	0	38,612	「さっぽろ若者サポートステーション」
5)自立支援・事業受託	3,944	0	3,436	0	0	7,380	まなぷらっと、まちづくりイベント広場
合 計 (C)	42,776	256	3,518	296	234	47,080	

2. 支出 (単位：千円)

項 目	決算						備考
	総合	アカシア	ポプラ	豊平	宮の沢	決算額(B)	
人件費	36,282	0	3,302	0	0	39,584	サポステ相談員・受託事業従事者等給与
旅費・交通費	122	0	0	0	0	122	市内外勤旅費および出張旅費
通信運搬費	389	0	0	0	0	389	資料配布切手、専用携帯電話
減価償却費	0	0	0	0	0	0	
消耗品費	453	240	71	0	0	764	物品販売用飲料水等
修繕費	0	0	0	0	0	0	
印刷製本費	0	0	0	0	0	0	
燃料費	0	0	0	0	0	0	
光熱水費	0	0	0	25	37	62	宮の沢自動販売設置料（電気料）
入場料	0	0	0	0	0	0	
賃借料	255	0	0	0	0	255	PCおよび複写機等
保険料	0	0	0	0	0	0	
諸謝金	1,606	0	0	0	0	1,606	自立支援相談業務謝礼
租税公課	0	0	2	0	0	2	まちづくりイベント広場契約印紙
負担金	0	0	0	0	0	0	
委託費	0	0	0	0	0	0	
役務費	3	0	132	0	0	135	まちづくりイベント広場HP保守等
支払手数料	0	0	0	0	0	0	
備品費	0	0	0	0	0	0	
広告宣伝費	572	0	0	0	0	572	リーフレット制作
会議費	0	0	0	0	0	0	
行政財産目的外使用料	0	0	0	16	34	50	自動販売機設置料（豊平・宮の沢）
雑費	46	0	0	0	0	46	利用者閲覧用雑誌
その他(法人事業費等)	0	0	0	0	0	0	
合 計(D)	39,728	240	3,507	41	71	43,587	

3. 収支差額 (単位：千円)

項 目	決算					
	総合	アカシア	ポプラ	豊平	宮の沢	決算額(B)
収支差額(C-D)	3,048	16	11	255	163	3,493